

1 実施概要

まちづくりの方向性を検討するため市民に「リニア開業を見据えたまちづくりに関するアンケート調査」を実施

調査目的	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県駅整備の効果を活かしたまちづくりの情報を発信（PR戦略）し、市全体の機運の向上を図ること ・事業に期待する事項、市民が思う市のポテンシャルを把握すること 		
調査対象	・18歳以上の市民2,000人（住民基本台帳より無作為抽出）	調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・調査依頼文を郵送配布 ・インターネットによるWEB回収
実施時期	・令和5年8月9日（水）～令和5年8月28日（月）	回収数 回収率	<ul style="list-style-type: none"> ・657件 ・33.0% ※郵便不着分は対象外（母数1,993）
設問	<ul style="list-style-type: none"> ○属性（年齢・居住地域） ○リニア中央新幹線開業を見据えたまちづくりについて（リニア山梨県駅の建設認知度、「中央市リニア活用基本構想」の認知度、リニア開業が市に及ぼす効果・期待度、本市の魅力） ○検討ゾーンにおけるまちづくりについて（都市計画マスタープランにおける位置づけの認知度、検討ゾーンにおける取り組みへの期待度、検討ゾーンにおける誘致施設への期待度） 		
備考	・アンケートの結果で示す割合は、小数点第二位の値を四捨五入して表記しているため、割合の合計が100%にならない場合があります。		

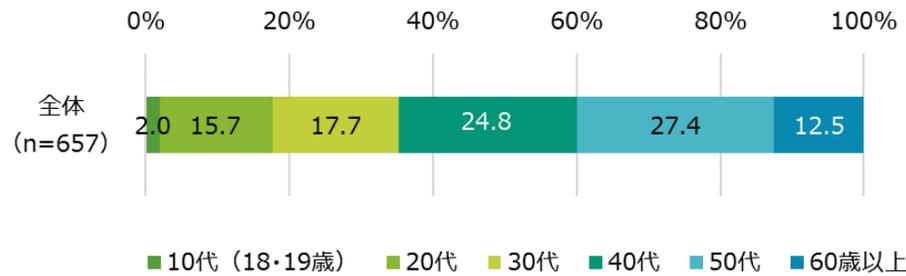
※本プランでは、旧町村単位で田富地区、玉穂地区、豊富地区として統一して表記しておりますが、実施したアンケート調査では、居住地域を田富地域、玉穂地域、豊富地域としてそれぞれ表記しています。

2 調査結果

あなたご自身について

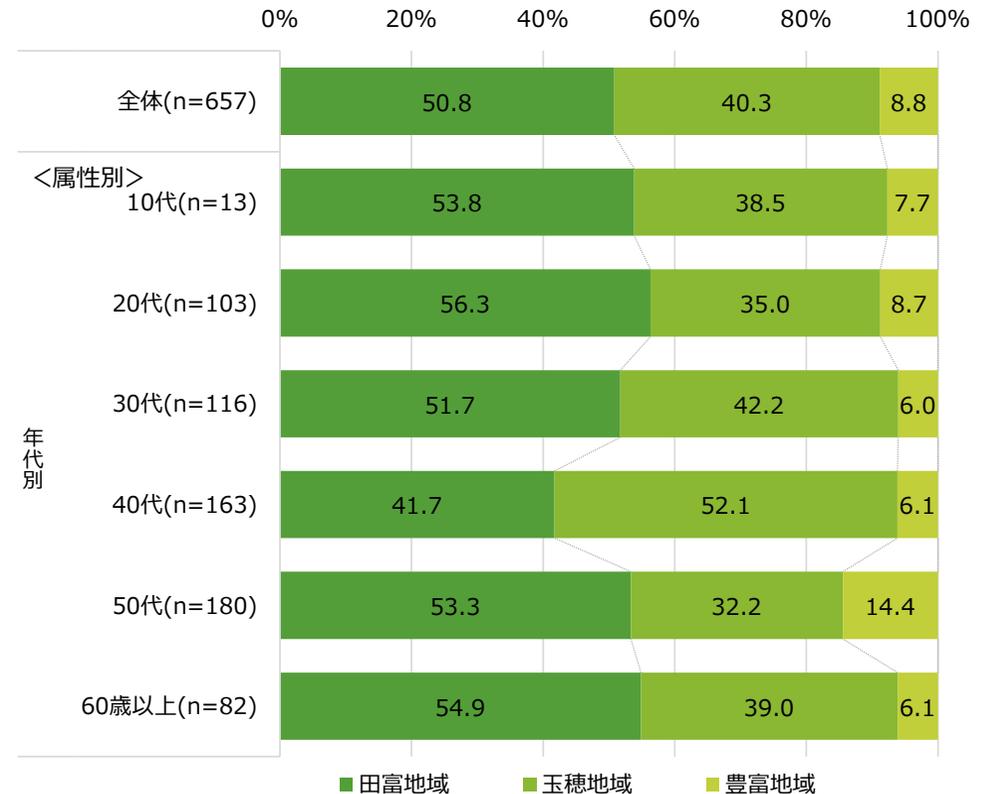
Q1. あなたの年齢を教えてください。(1つ選択)

- 50代が最も多く27.4%、次いで40代の24.8%、30代の17.7%となっている。
- 回答者の約86%が現役世代（20歳～60歳までの世代）となっており、リニア開業の影響を受けやすい世代が多く回答している。



Q2. 現在のお住まいの地域についてあてはまるものを選んでください。(1つ選択)

- 「田富地域」が最も多く50.8%、次いで「玉穂地域」が40.3%、「豊富地域」が8.8%となっている。地域別の人口割合と概ね同様の回答割合となっている。
- 年代別を見ると、40代のみ「玉穂地域」が多いが、その他の年代は全体と概ね同様の傾向である。

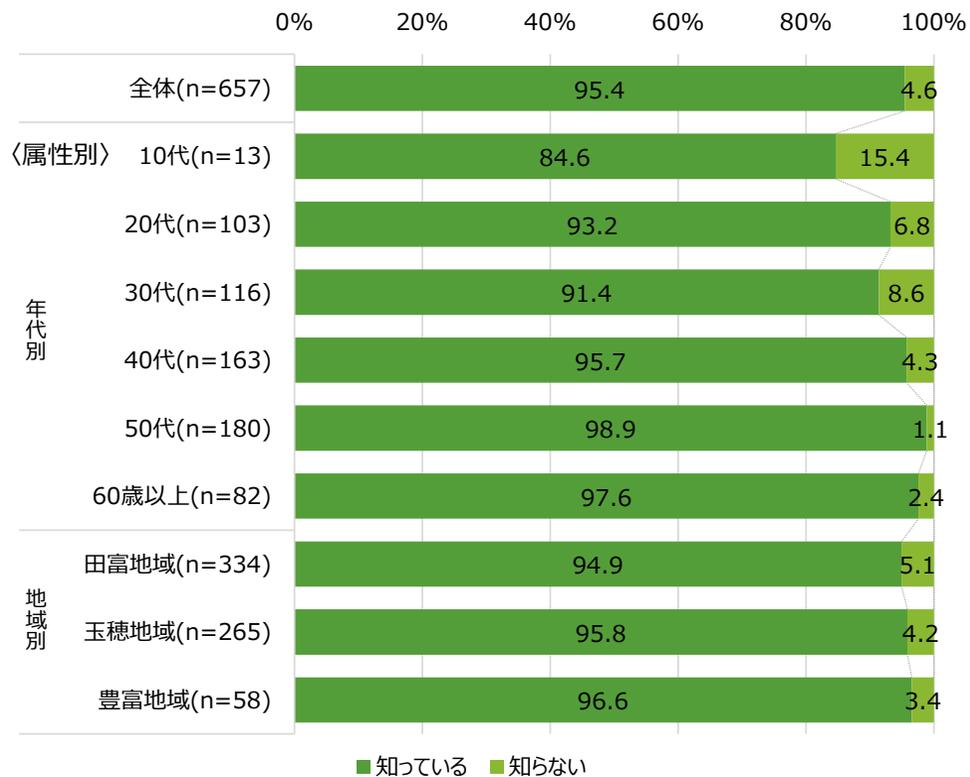


2 調査結果

あなたご自身について

Q3. 本市に隣接する甲府市大津町に、リニア中央新幹線山梨県駅が建設（予定）されることはご存じですか。（1つ選択）

全体		<ul style="list-style-type: none"> 「知っている」が95.4%となっており、建設（予定）の認知度は非常に高い。
属性別	年代別	<ul style="list-style-type: none"> 「10代」以外の年代は90%以上となっており、認知度は非常に高い。
	居住地域別	<ul style="list-style-type: none"> 地域別に見ても95%前後となっており、地域による認知度の差はない。

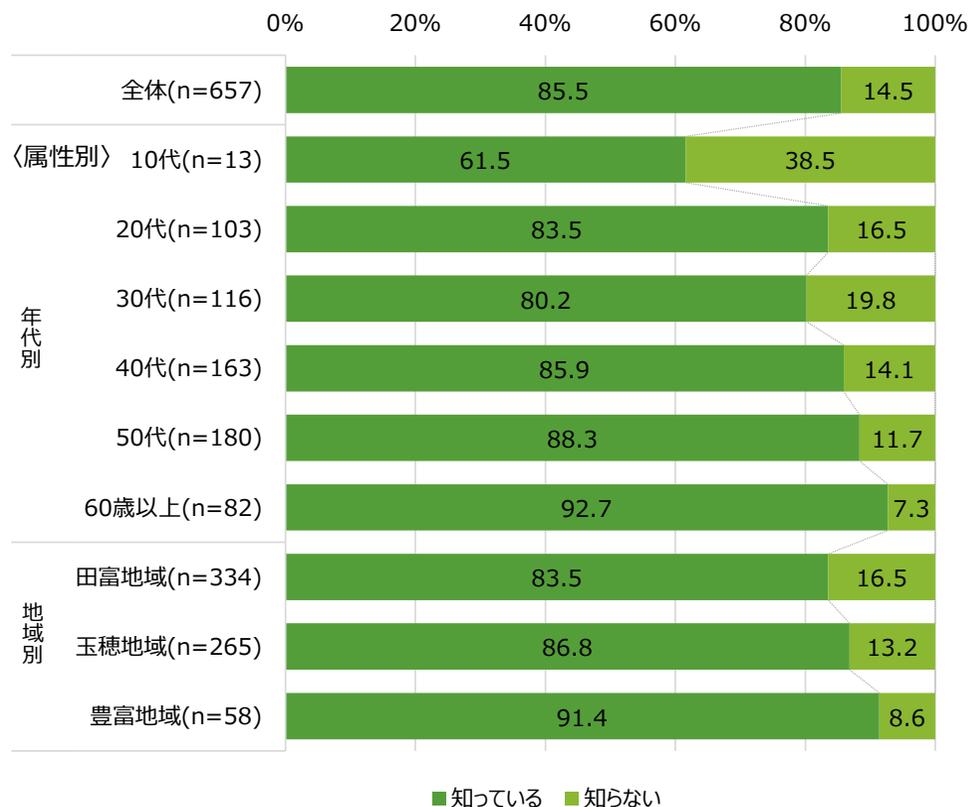


2 調査結果

リニア中央新幹線開業を見据えたまちづくりについて

Q4. リニア中央新幹線開業により、本県と東京都心からは約25分、名古屋からは約45分で結ばれることはご存じですか。（1つ選択）

全体	<ul style="list-style-type: none"> 「知っている」が85.5%となっており、大都市とのアクセス性が飛躍的に向上することの認知度は非常に高くなっている。 	
属性別	年代別	<ul style="list-style-type: none"> 年代が上がるにつれ、「知っている」の割合が増加傾向にあり、「50代」・「60歳以上」では約9割となっている。
	居住地域別	<ul style="list-style-type: none"> 「知っている」の割合が豊富地域で若干多いものの、地域別で大きな差は見られない。

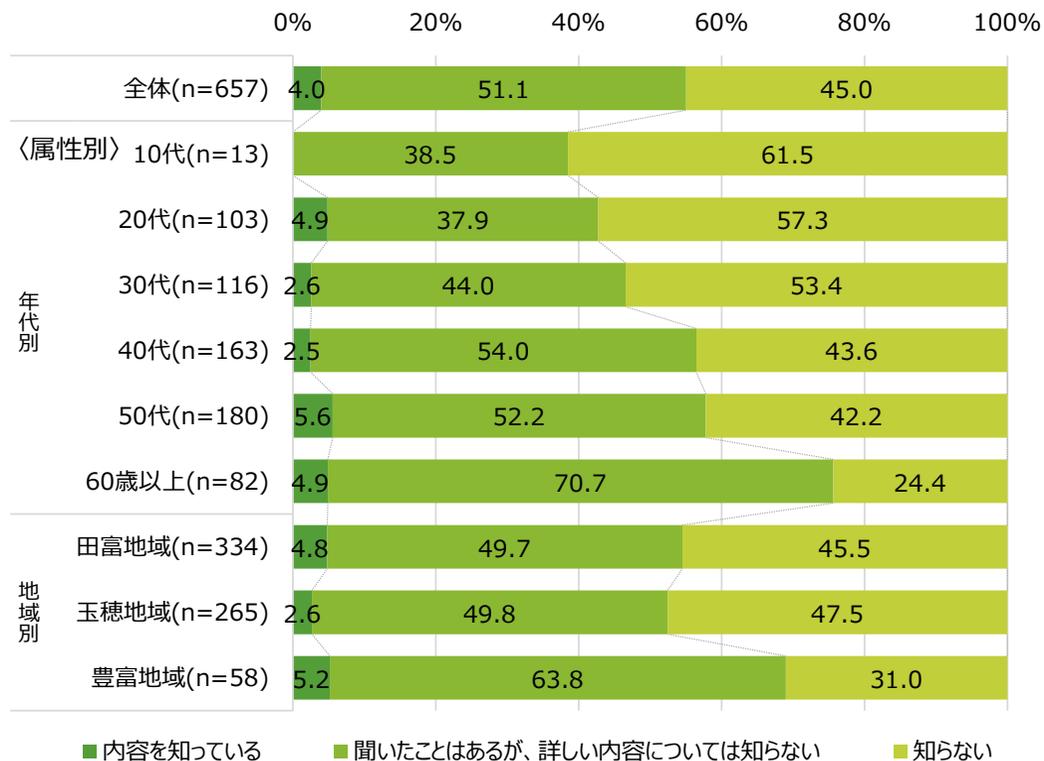


2 調査結果

リニア中央新幹線開業を見据えたまちづくりについて

Q5. 平成29年3月に策定した「中央市リニア活用基本構想」についてご存知ですか。(1つ選択)

全体	<ul style="list-style-type: none"> 「内容を知っている」は4.0%にとどまり、「聞いたことはあるが、詳しい内容については知らない」「知らない」が大半を占め、認知度は低い。
属性別 年代別	<ul style="list-style-type: none"> 年代が上がるにつれ、「聞いたことはあるが、詳しい内容については知らない」の割合は増加傾向にあるものの、「内容を知っている」の割合は各年代5%程度となっている。
居住地域別	<ul style="list-style-type: none"> 「聞いたことはあるが、詳しい内容については知らない」の割合が豊富地域で若干多いものの、全体と同様の傾向である。

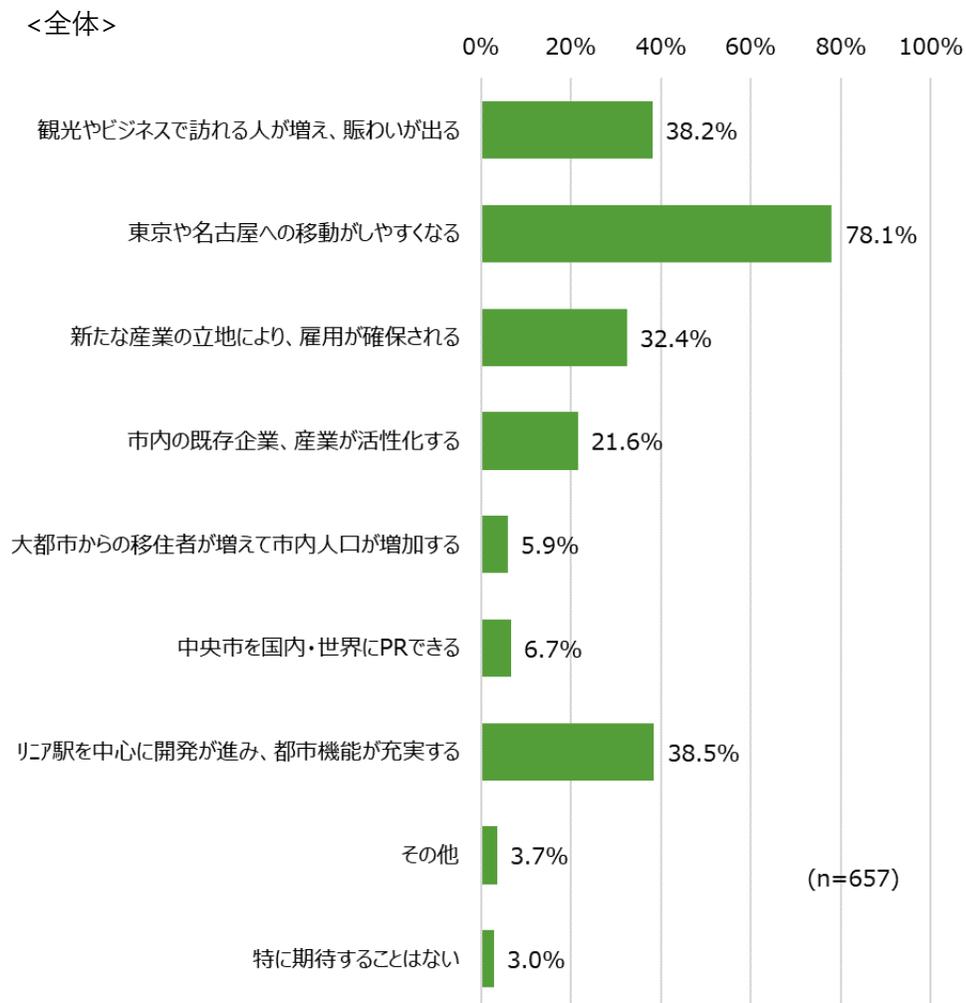


2 調査結果

リニア中央新幹線開業を見据えたまちづくりについて

Q6. リニア中央新幹線の開業が本市に及ぼす効果について期待することは何ですか。（3つまで）

全体		<ul style="list-style-type: none"> 「東京や名古屋への移動がしやすくなる」が最も多く78.1%、次いで「リニア駅を中心に開発が進み、都市機能が充実する」が38.5%、「観光やビジネスで訪れる人が増え、賑わいが出る」が38.2%となっている。 “交通利便性の向上”や“都市機能の充実”、“交流人口の増加”への期待が高くなっている。
属性別 (42頁参照)	年代別	<ul style="list-style-type: none"> 「観光やビジネスで訪れる人が増え、賑わいが出る」について、若い世代ほど期待が高くなっている。 一方、“雇用の確保”や“産業の活性化”、“移住者による人口増加”については年代が上がるにつれ期待が高くなっている。
	居住地域別	<ul style="list-style-type: none"> 3地域とも全体の傾向と同様であり、地域別で大きな差は見られない。

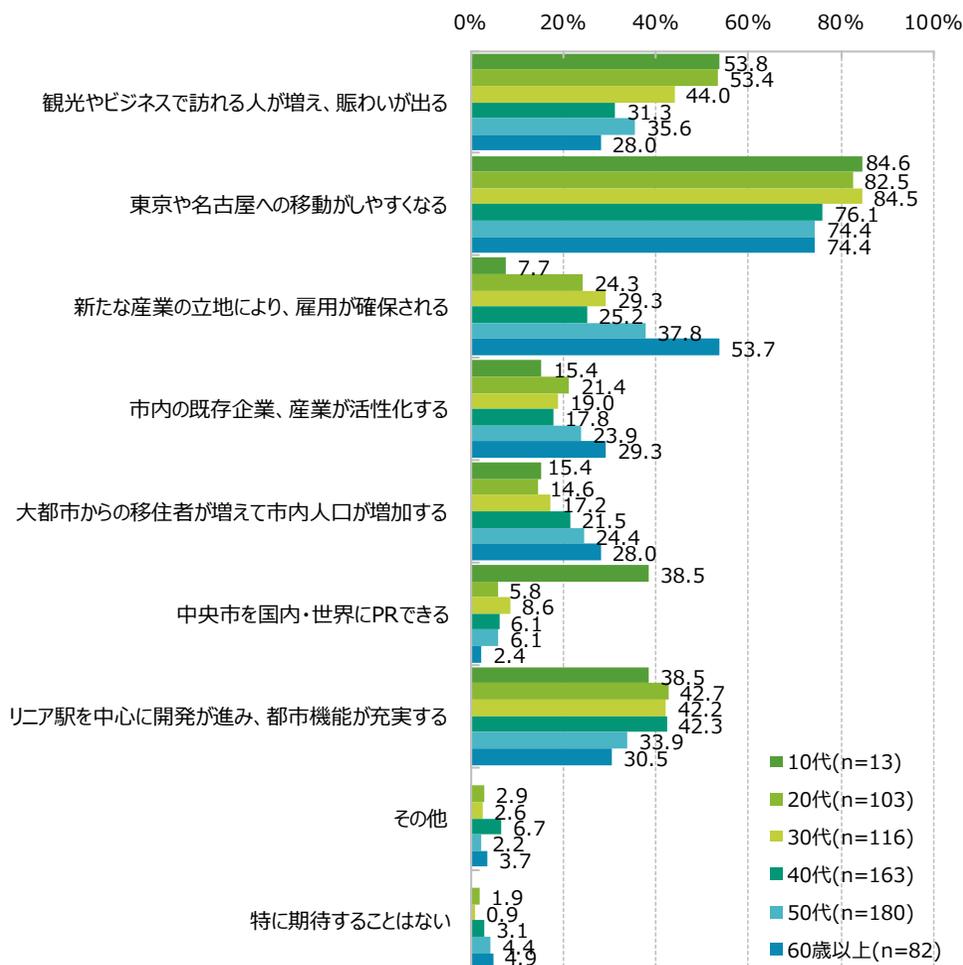


2 調査結果

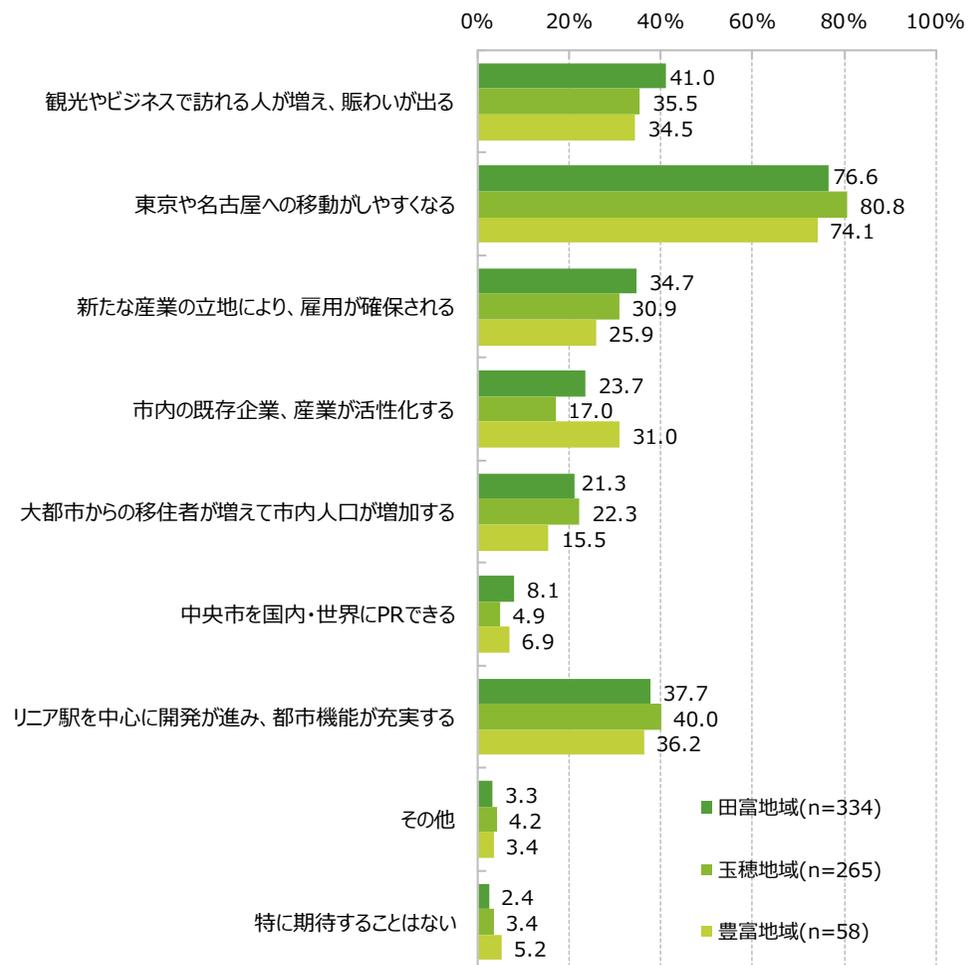
リニア中央新幹線開業を見据えたまちづくりについて

Q6. リニア中央新幹線の開業が本市に及ぼす効果について期待することは何ですか。（3つまで）

<年代別>



<居住地域別>

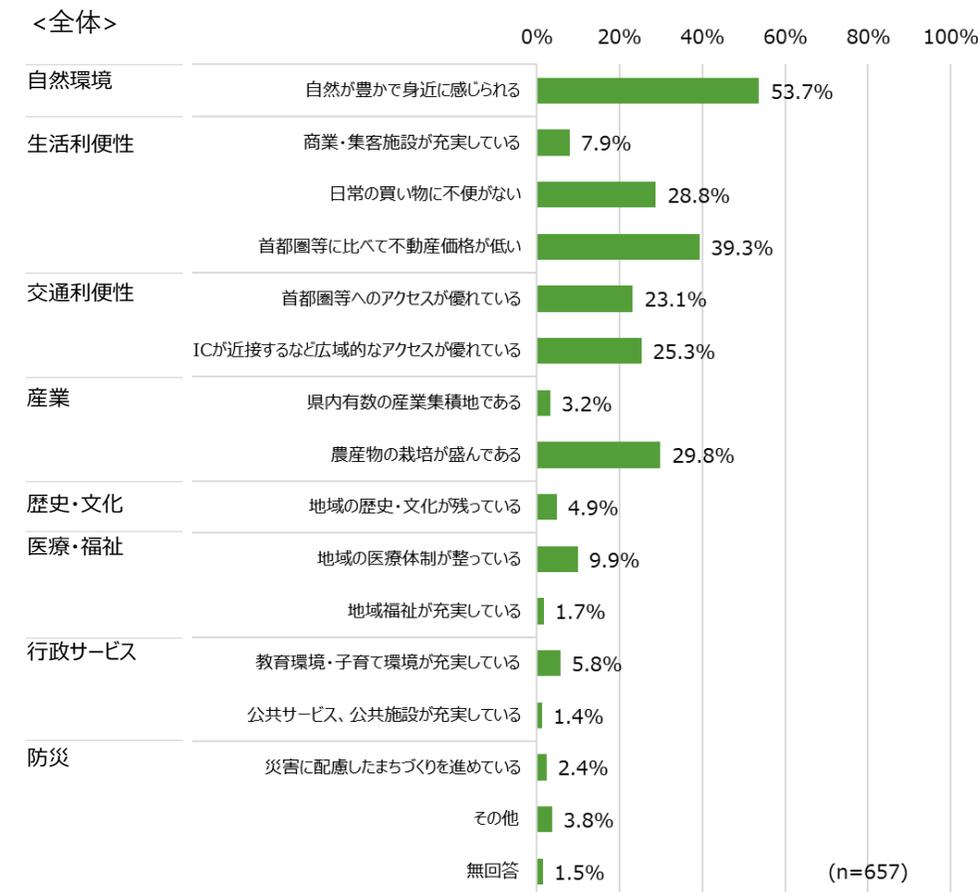


2 調査結果

リニア中央新幹線開業を見据えたまちづくりについて

Q7. リニア中央新幹線開業により、首都圏や中京圏との交流が活発になることが期待されています。来訪者や企業などに伝えたい本市の魅力は何ですか。(3つまで)

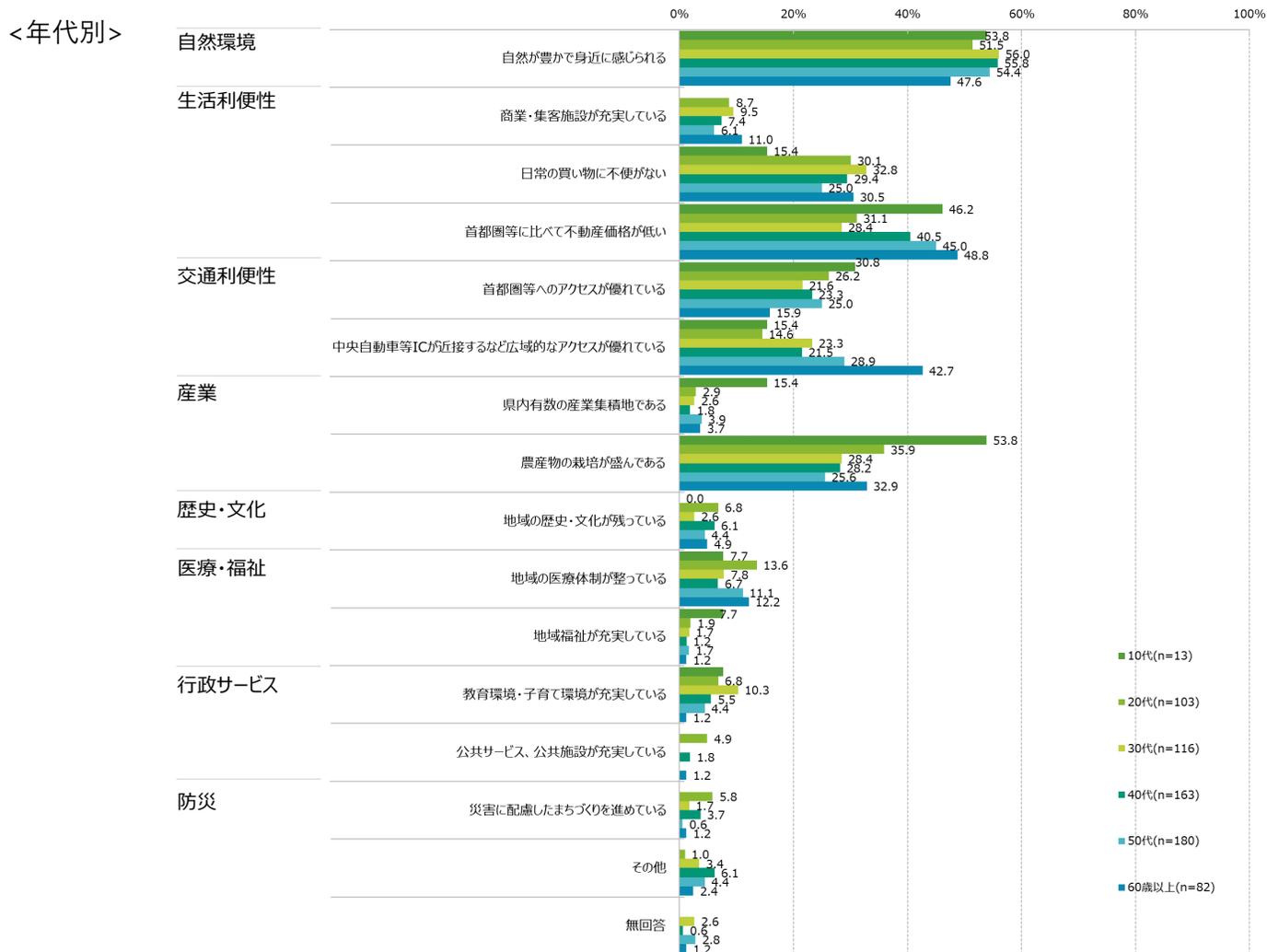
属性別 (44 〜 45 頁参照)	全体	<ul style="list-style-type: none"> 「自然が豊かで身近に感じられる」が最も多く53.7%、次いで「首都圏に比べて不動産価格が安い」が39.3%、「農産物の栽培が盛んである」が29.8%、「日常の買い物に不便がない」が28.8%となっている。 交通利便性については、「首都圏へのアクセス」「広域的なアクセス」ともに約25%の方が魅力と感じており、本市の強みとして交通利便性が認識されている。 自然環境が豊かでありながらも、生活利便性や交通利便性のポテンシャルが高いことが、本市の魅力であると推察される。 その他では、都市と農業の共存等の意見がある一方で、中途半端、魅力を感じないといった意見も見られた。
	年代別	<ul style="list-style-type: none"> 「自然が豊かで身近に感じられる」はいずれの世代も最も多く、「自然環境」について魅力を感じている。 交通利便性については、「首都圏へのアクセス」は若い世代ほど高い傾向にあるものの、「広域的アクセス」については年代が上がるにつれ高く、年代による差が見られた。
	居住地域別	<ul style="list-style-type: none"> 3地域とも全体の傾向と同様であり、地域別で大きな差は見られない。 「自然が豊かで身近に感じられる」については、豊富地域が75.9%と他の地域に比べて高くなっている。



2 調査結果

リニア中央新幹線開業を見据えたまちづくりについて

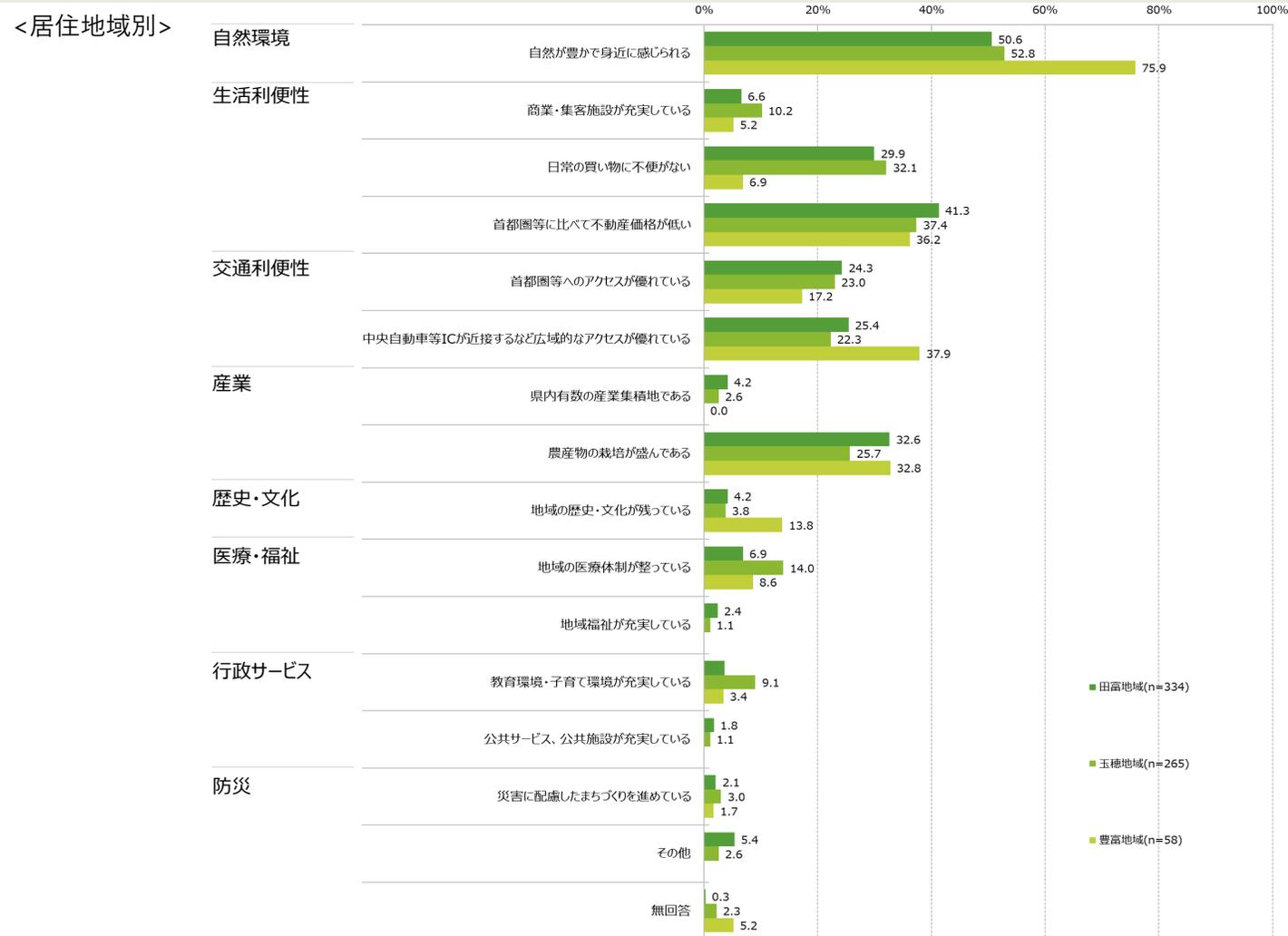
Q7. リニア中央新幹線開業により、首都圏や中京圏との交流が活発になることが期待されています。来訪者や企業などに伝えたい本市の魅力は何ですか。(3つまで)



2 調査結果

リニア中央新幹線開業を見据えたまちづくりについて

Q7. リニア中央新幹線開業により、首都圏や中京圏との交流が活発になることが期待されています。来訪者や企業などに伝えたい本市の魅力は何ですか。(3つまで)

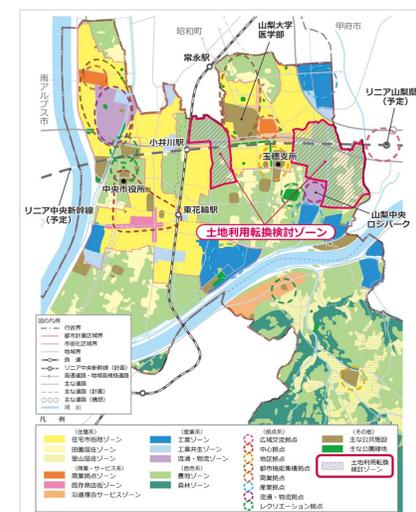
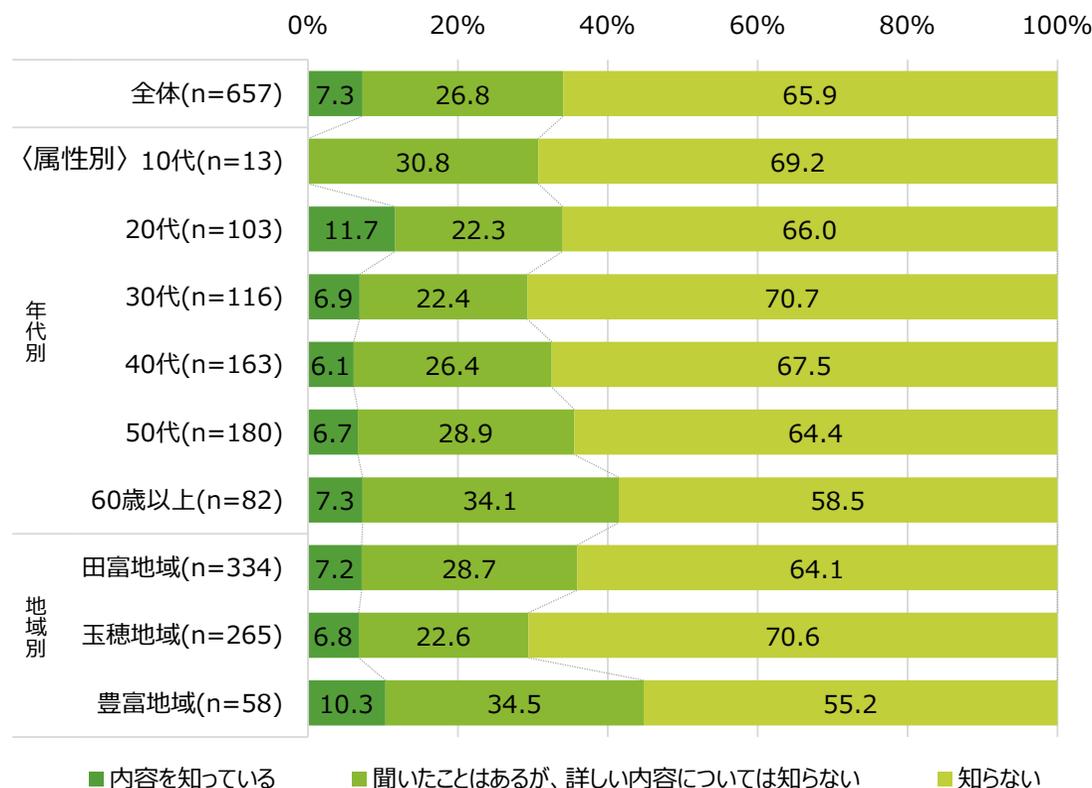


2 調査結果

検討ゾーンにおけるまちづくりについて

Q8. 令和2年に「中央市都市計画マスタープラン」を改定し、図に示すエリア（図赤線囲み部分）を「検討ゾーン」に位置づけたことはご存知ですか。（1つ選択）

全体	<ul style="list-style-type: none"> 「内容を知っている」は7.3%にとどまり、「聞いたことはあるが、詳しい内容については知らない」「知らない」が大半を占め、認知度は非常に低い。
属性別	<ul style="list-style-type: none"> 年代別 <ul style="list-style-type: none"> 年代が上がるにつれ、「聞いたことはあるが、詳しい内容については知らない」の割合は増加傾向にある。「内容を知っている」の割合は20代で11.7%と最も多くなっている。他の年代では7%程度となっている。 居住地域別 <ul style="list-style-type: none"> 「内容を知っている」について、他地域と比べて豊富地域（10.3%）が若干高くなっている。



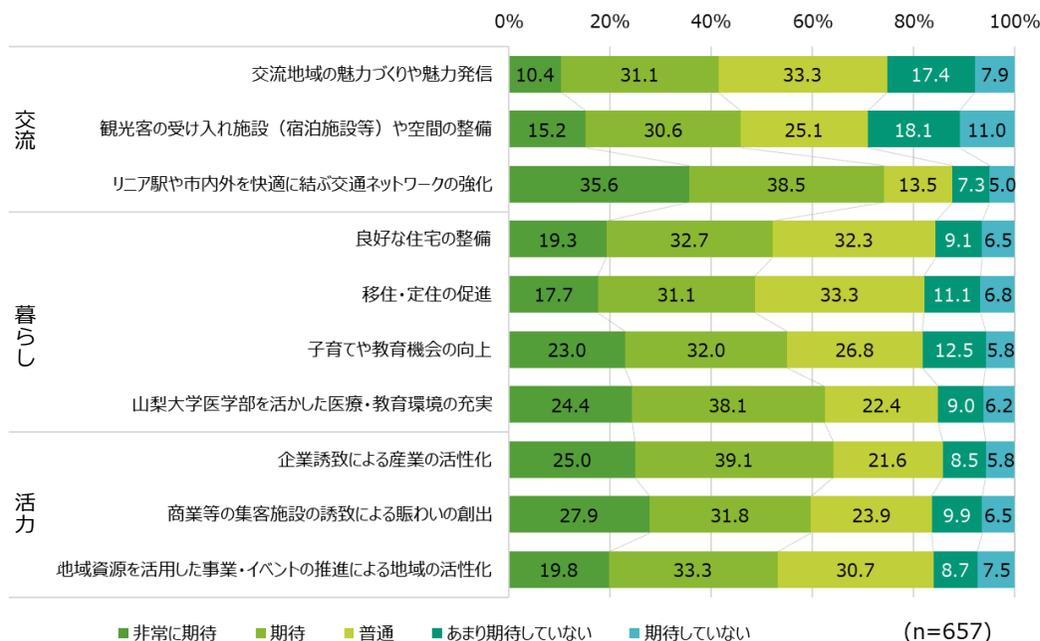
図：「土地利用転換検討ゾーン」対象地域

2 調査結果

検討ゾーンにおけるまちづくりについて

Q9. 中央市リニア活用基本構想において、リニアを活用した市が目指すべき姿について、交流・暮らし・活力の3つの柱を据えて、様々な取り組みが掲げられています。「検討ゾーン」における次の取り組みについてどのようにお考えですか。それぞれの取り組みについて該当するものを選んでください。（1つ選択）

全体	<ul style="list-style-type: none"> 「リニア駅や市内外を快適に結ぶ交通ネットワークの強化」が非常に期待・期待をあわせ74.1%と期待度が最も高い。次いで「企業誘致による産業の活性化」が64.1%、「山梨大学医学部を活かした医療・教育環境の充実」が62.5%となっている。 一方、「交流地域の魅力づくりや魅力発信」や「観光客の受け入れ施設（宿泊施設等）や空間の整備」は、あまり期待しない・期待しないを合わせ3割程度で、期待度は低くなっている。 	
3 つの 柱	交流	<ul style="list-style-type: none"> 「リニア駅や市内外を快適に結ぶ交通ネットワークの強化」に対し、非常に期待度が高くなっている。
	暮らし	<ul style="list-style-type: none"> 子育てや教育機会、医療・教育環境の充実等への期待度が高くなっている。
	活力	<ul style="list-style-type: none"> 誘致による産業の活性化、集客施設による賑わいへの期待度が高くなっている。



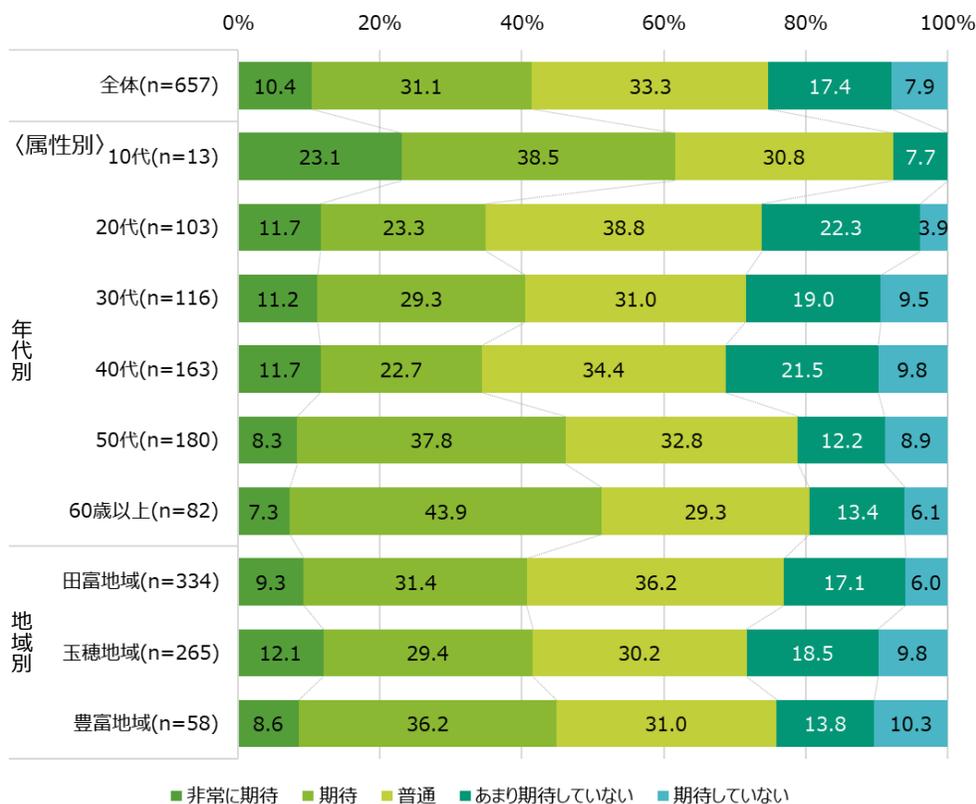
2 調査結果

検討ゾーンにおけるまちづくりについて 【Q9_交流】

Q9. 中央市リニア活用基本構想において、リニアを活用した市が目指すべき姿について、交流・暮らし・活力の3つの柱を据えて、様々な取り組みが掲げられています。「検討ゾーン」における次の取り組みについてどのようにお考えですか。それぞれの取り組みについて該当するものを選んでください。（1つ選択）

全体 (48~49 頁参照)	<ul style="list-style-type: none"> 「リニア駅や市内外を快適に結ぶ交通ネットワークの強化」について期待度が最も高くなっている。 「交流地域の魅力づくりや魅力発信」や「観光客の受け入れ施設（宿泊施設等）や空間の整備」は、あまり期待しない・期待しないを合わせ3割程度であり、3つの柱である「暮らし」「活力」の項目とくらべ期待度は低くなっている。
	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代ほど期待度は高い傾向にある。一方で、「地域の魅力づくりや魅力発信」については、50代以上で期待度が高まっている。 40代では他の年代に比べて「リニア駅や市内外を快適に結ぶ交通ネットワークの強化」が高いものの、他の項目では期待度は低い傾向にある。
属性別 (48~49 頁参照)	<ul style="list-style-type: none"> 年代別 <ul style="list-style-type: none"> 若い世代ほど期待度は高い傾向にある。一方で、「地域の魅力づくりや魅力発信」については、50代以上で期待度が高まっている。 居住地別 <ul style="list-style-type: none"> 3地域とも全体の傾向と同様であり、地域別で大きな差は見られない。

●地域の魅力づくりや魅力発信

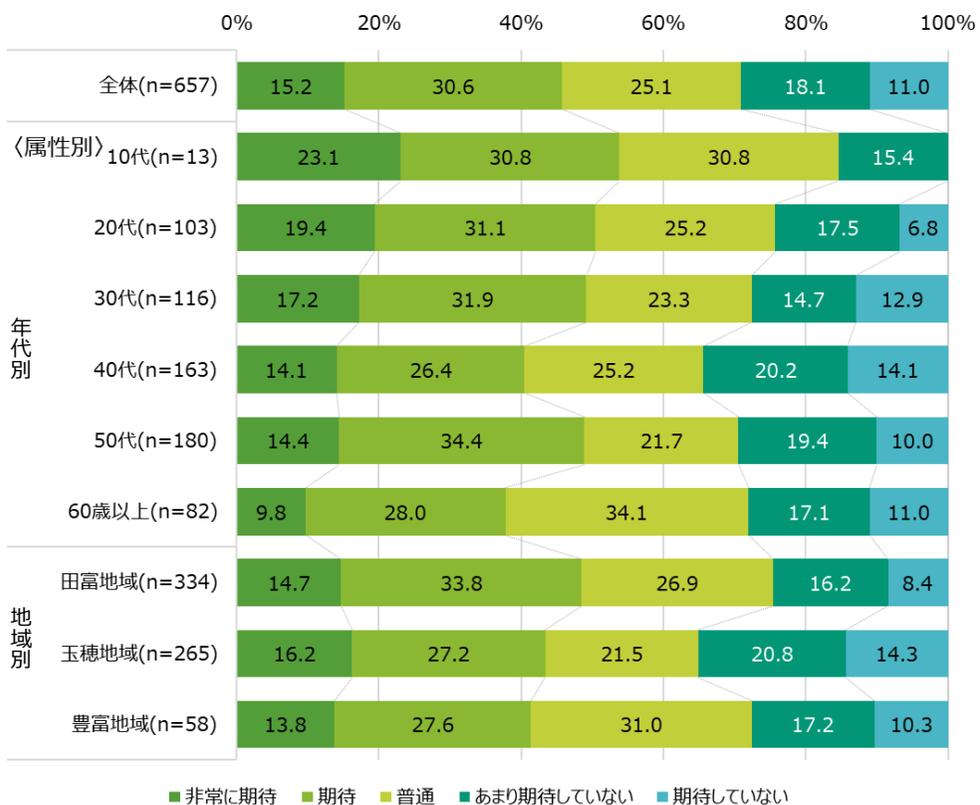


2 調査結果

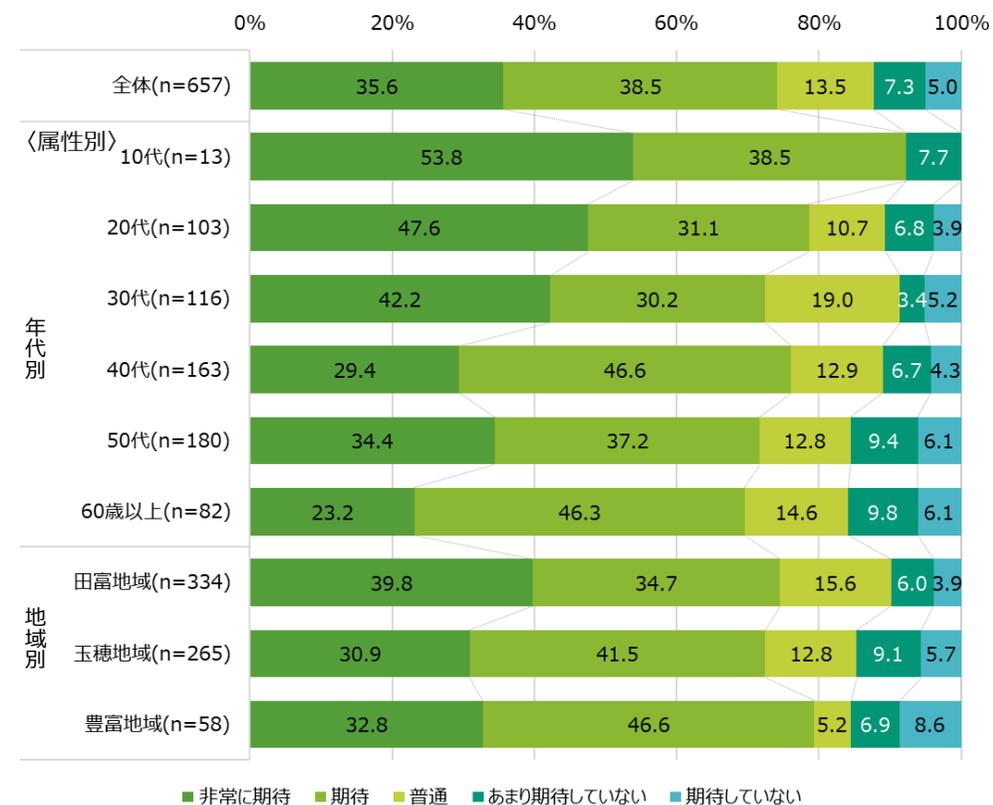
検討ゾーンにおけるまちづくりについて 【Q9_交流】

Q9. 中央市リニア活用基本構想において、リニアを活用した市が目指すべき姿について、交流・暮らし・活力の3つの柱を据えて、様々な取り組みが掲げられています。「検討ゾーン」における次の取り組みについてどのようにお考えですか。それぞれの取り組みについて該当するものを選んでください。（1つ選択）

● 観光客の受け入れ施設（宿泊施設等）や空間の整備



● リニア駅や市内外を快適に結ぶ交通ネットワークの強化



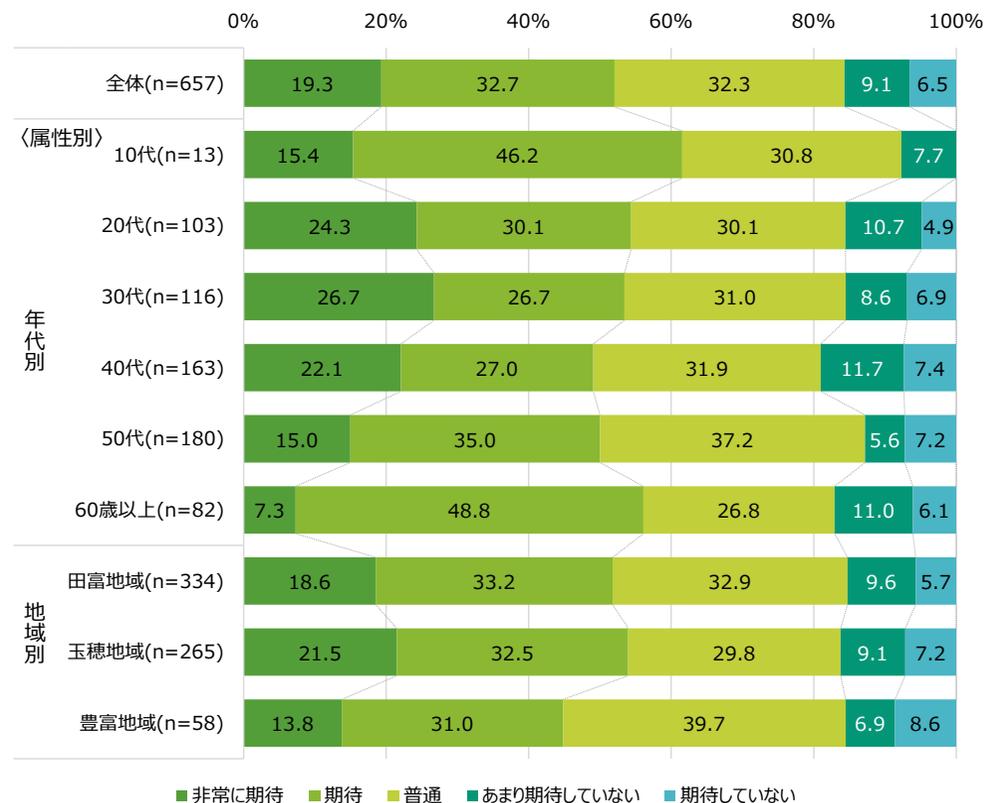
2 調査結果

検討ゾーンにおけるまちづくりについて 【Q9_暮らし】

Q9. 中央市リニア活用基本構想において、リニアを活用した市が目指すべき姿について、交流・暮らし・活力の3つの柱を据えて、様々な取り組みが掲げられています。「検討ゾーン」における次の取り組みについてどのようにお考えですか。それぞれの取り組みについて該当するものを選んでください。（1つ選択）

属性別 (50～52頁参照)	全体 (50～52頁参照)	<ul style="list-style-type: none"> いずれの項目においても、非常に期待・期待を合わせ50～60%程度となっており、比較的期待度は高い。特に「山梨大学医学部を活かした医療・教育環境の充実」への期待度が高くなっている。
	年代別	<ul style="list-style-type: none"> 50代、60歳以上では「移住・定住の促進」への期待が、20代、30代では「子育てや教育機会の向上」への期待が高く、年代による傾向に違いがある。 一方で、「山梨大学医学部を活かした医療・教育環境の充実」は20代では非常に期待・期待を合わせ54.4%にとどまるものの、いずれの年代でも比較的期待度は高くなっている。
	居住地域別	<ul style="list-style-type: none"> 3地域とも全体の傾向と同様であり、地域別で大きな差は見られない。

●良好な住宅の整備

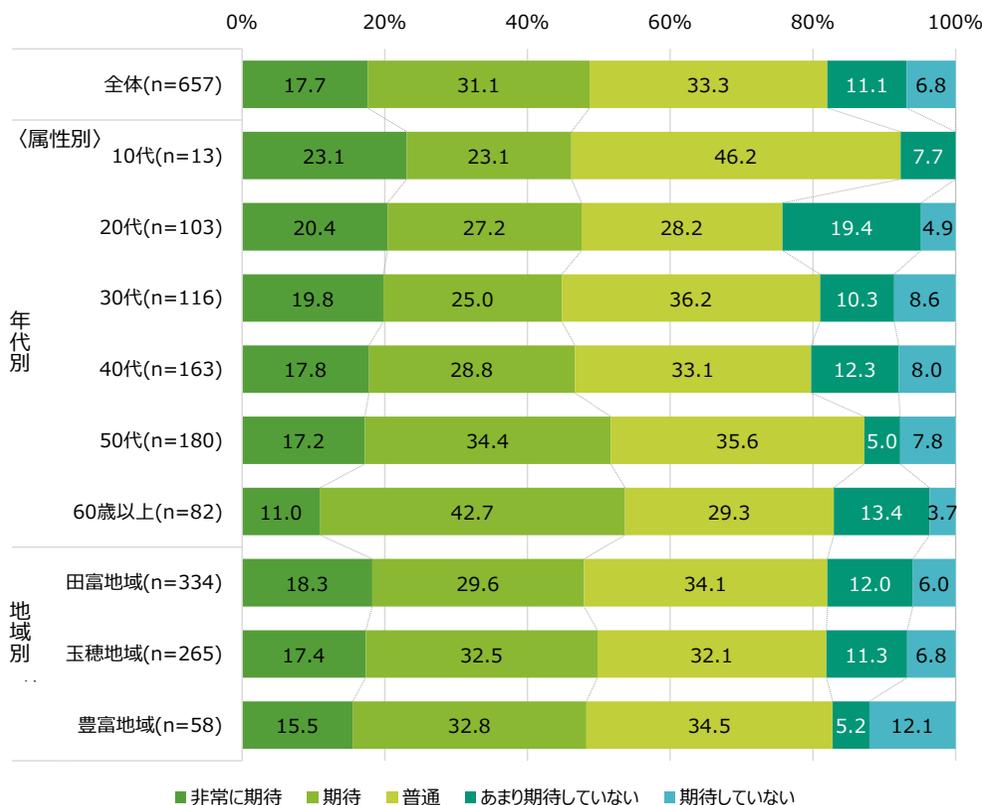


2 調査結果

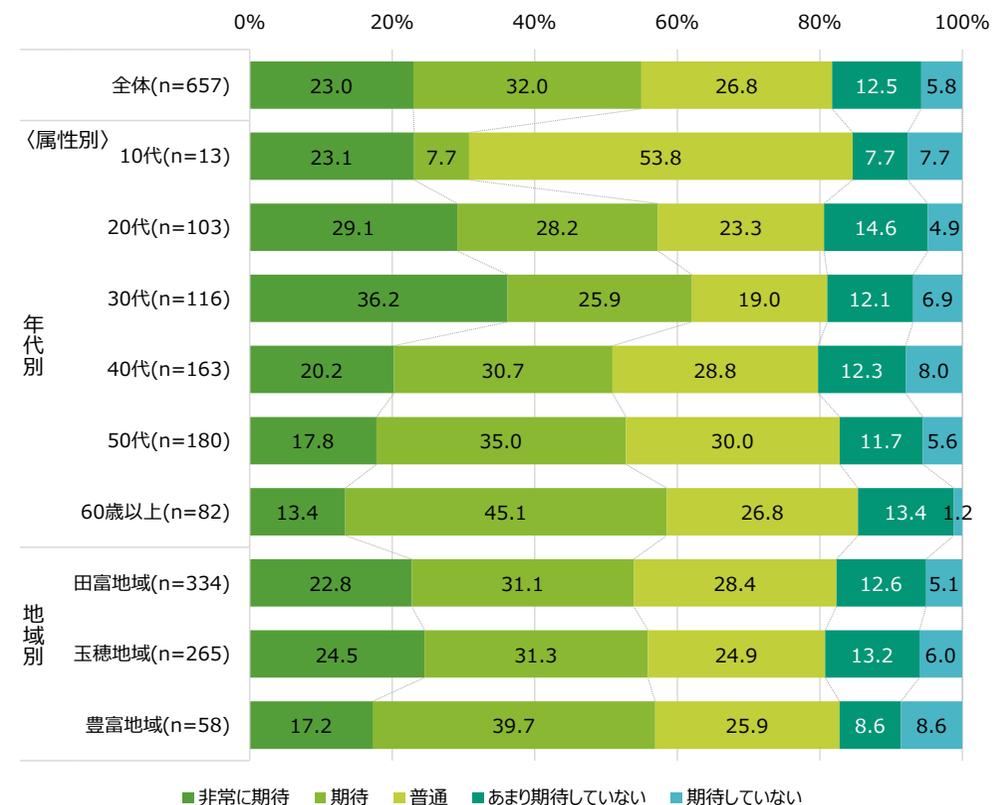
検討ゾーンにおけるまちづくりについて 【Q9_暮らし】

Q9. 中央市リニア活用基本構想において、リニアを活用した市が目指すべき姿について、交流・暮らし・活力の3つの柱を据えて、様々な取り組みが掲げられています。「検討ゾーン」における次の取り組みについてどのようにお考えですか。それぞれの取り組みについて該当するものを選んでください。（1つ選択）

● 移住・定住の促進



● 子育てや教育機会の向上

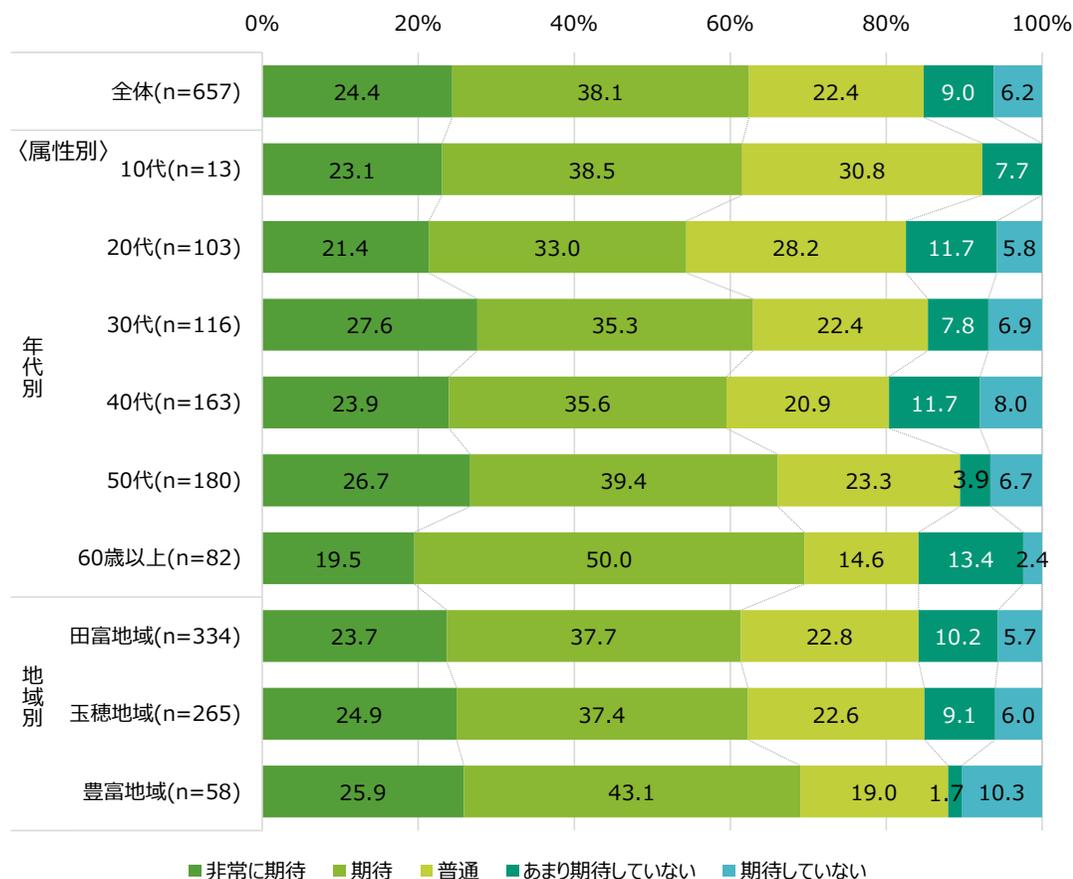


2 調査結果

検討ゾーンにおけるまちづくりについて 【Q9_暮らし】

Q9. 中央市リニア活用基本構想において、リニアを活用した市が目指すべき姿について、交流・暮らし・活力の3つの柱を据えて、様々な取り組みが掲げられています。「検討ゾーン」における次の取り組みについてどのようにお考えですか。それぞれの取り組みについて該当するものを選んでください。（1つ選択）

●山梨大学医学部を活かした医療・教育環境の充実



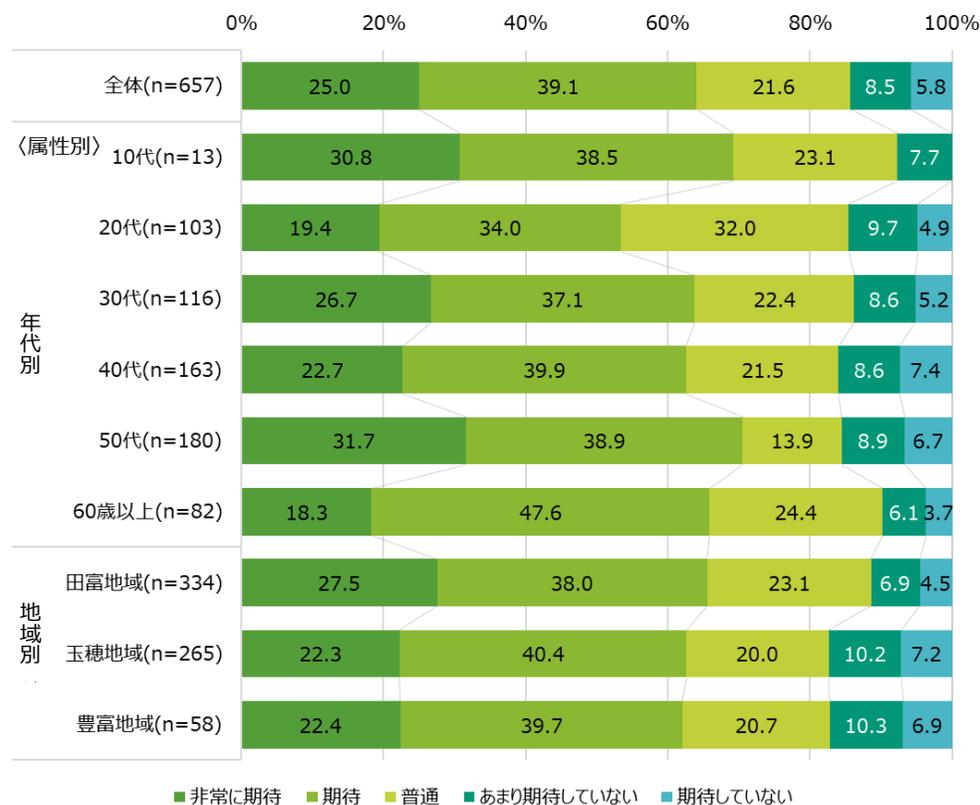
2 調査結果

検討ゾーンにおけるまちづくりについて 【Q9_活力】

Q9. 中央市リニア活用基本構想において、リニアを活用した市が目指すべき姿について、交流・暮らし・活力の3つの柱を据えて、様々な取り組みが掲げられています。「検討ゾーン」における次の取り組みについてどのようにお考えですか。それぞれの取り組みについて該当するものを選んでください。（1つ選択）

全体 (53～54頁参照)	<ul style="list-style-type: none"> いずれの項目においても、非常に期待・期待を合わせ50～60%程度となっており、比較的期待度は高い。
属性別 (53～55頁参照)	<ul style="list-style-type: none"> 年代別 <ul style="list-style-type: none"> 10代では、いずれの項目においても期待度が高い傾向にある。 10代、50代で「企業誘致による産業の活性化」が非常に期待・期待を合わせ70%程度となっており期待度が高くなっている。 居住地別 <ul style="list-style-type: none"> 3地域とも全体の傾向と同様であり、地域別で大きな差は見られない。

●企業誘致による産業の活性化

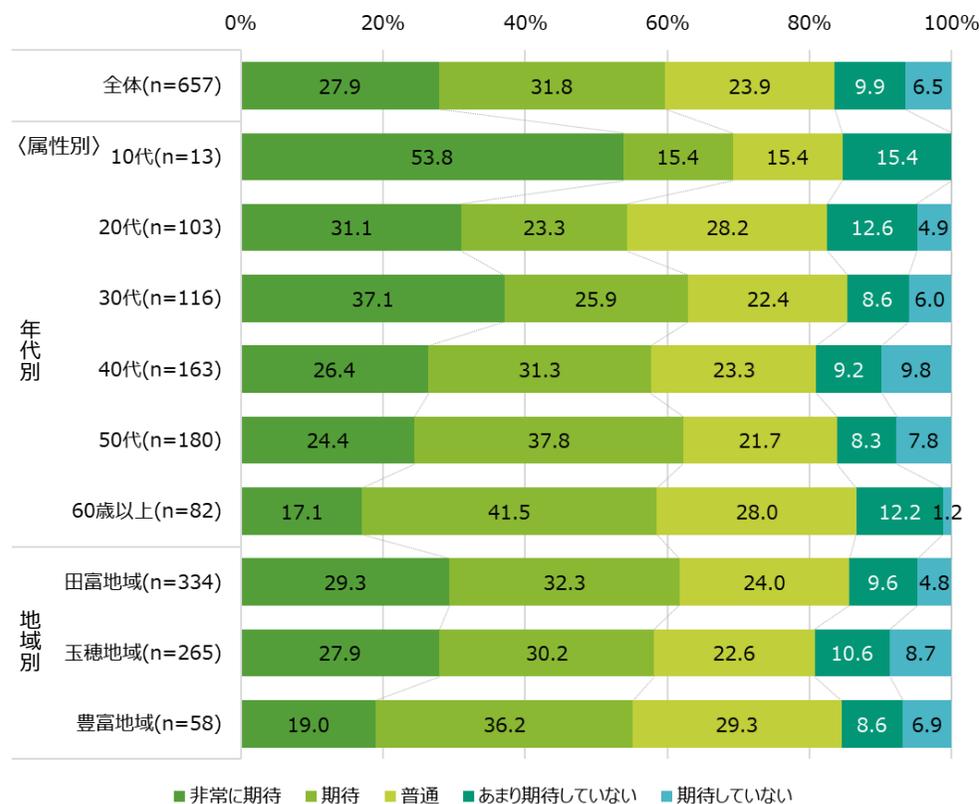


2 調査結果

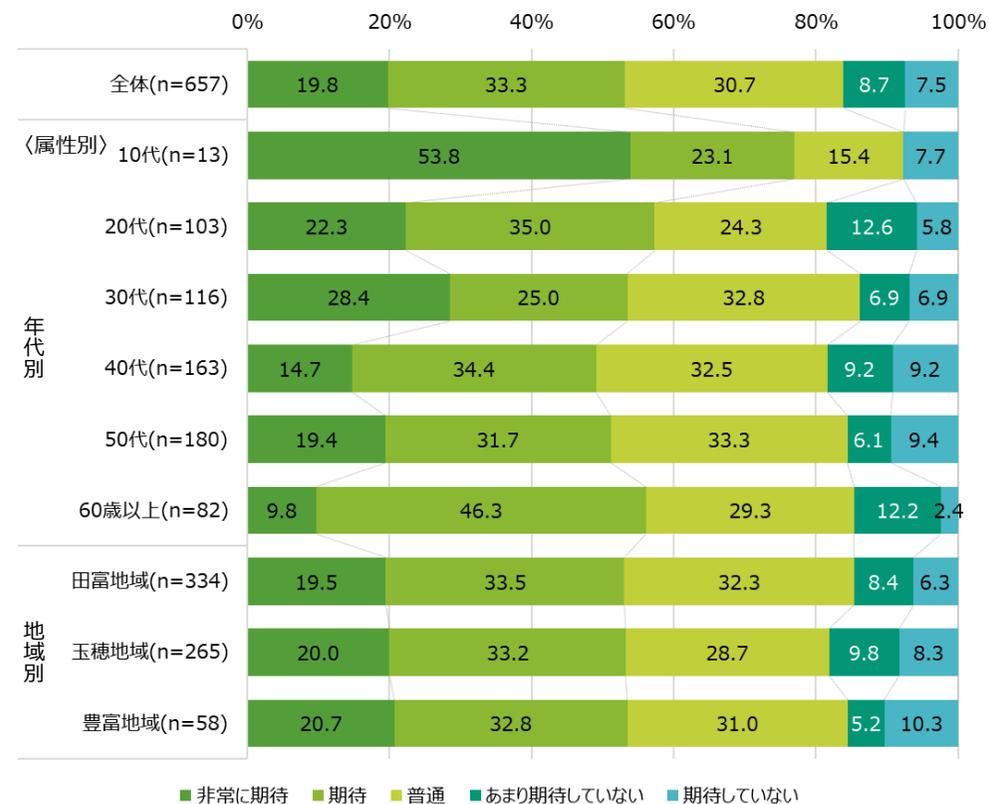
検討ゾーンにおけるまちづくりについて 【Q9_活力】

Q9. 中央市リニア活用基本構想において、リニアを活用した市が目指すべき姿について、交流・暮らし・活力の3つの柱を据えて、様々な取り組みが掲げられています。「検討ゾーン」における次の取り組みについてどのようにお考えですか。それぞれの取り組みについて該当するものを選んでください。（1つ選択）

● 商業等の集客施設の誘致による賑わいの創出



● 地域資源を活用した事業・イベントの推進による地域の活性化



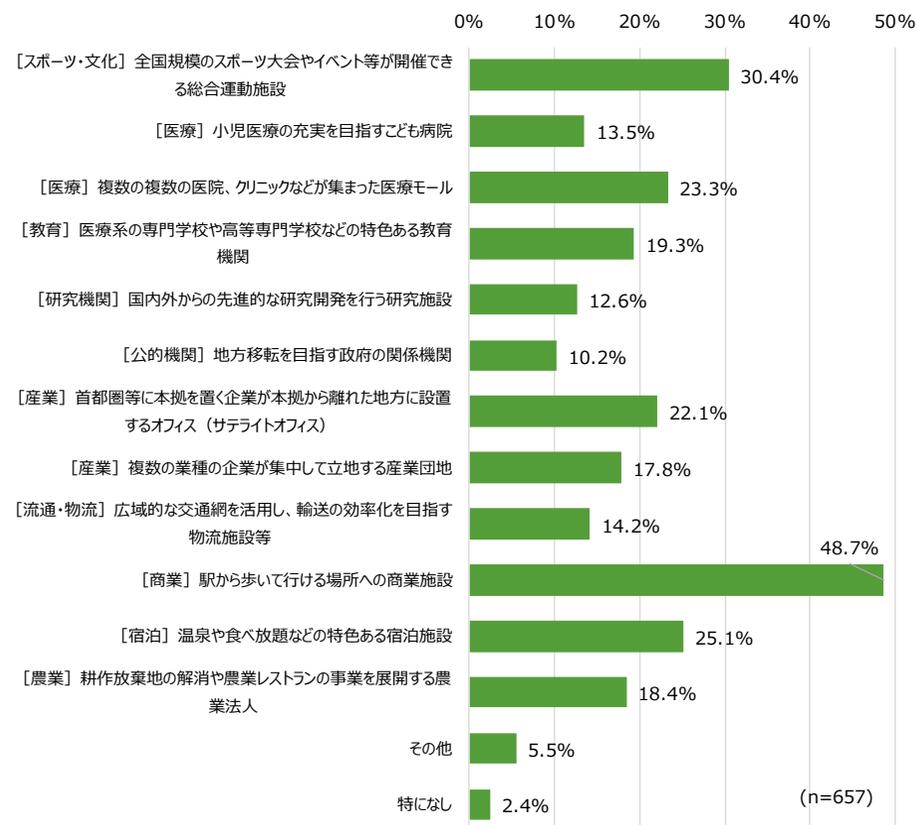
2 調査結果

検討ゾーンにおけるまちづくりについて

Q10. 中央市リニア活用基本構想等において、次のように様々な施設の誘致などが考えられています。「検討ゾーン」への誘致について期待するものはありますか。該当するものを選んでください。（3つまで）

全体 (55～57 頁参照)	<ul style="list-style-type: none"> 「駅から歩いて行ける場所への商業施設」が最も多く48.7%、次いで「全国規模のスポーツ大会やイベント等が開催できる総合運動施設」が30.4%、「温泉や食べ放題などの特色ある宿泊施設」が25.1%となっている。 その他では、大型ショッピングセンター、アウトレットモール、保育施設、公園、ホテル・駅ビル・商業施設の一体化、コンベンションセンター、サッカー専用スタジアムなど、具体的な施設の誘致を期待する意見が見られた。 エリアの核となる集客性の高い施設へのニーズが高いものと推察される。
	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代ほど「駅から歩いていける場所への商業施設」が多い傾向にあり、20代で66.0%、30代で55.2%となっている。 20代では、「総合運動施設」「特色ある宿泊施設」がいずれも41.7%と他の年代に比べ突出して多くなっている。 年代が上がるにつれ農業に関する項目の期待が増加傾向にある。
属性別 (55～57 頁参照)	年代別 <ul style="list-style-type: none"> 全体の傾向と大きな差は見られない。 豊富地域においては、「駅から歩いていける場所への商業施設」が36.2%と他の地域に比べ少なくなっており、「特になし」が8.6%と約1割の方に及んでいる。
	居住地別

<全体>

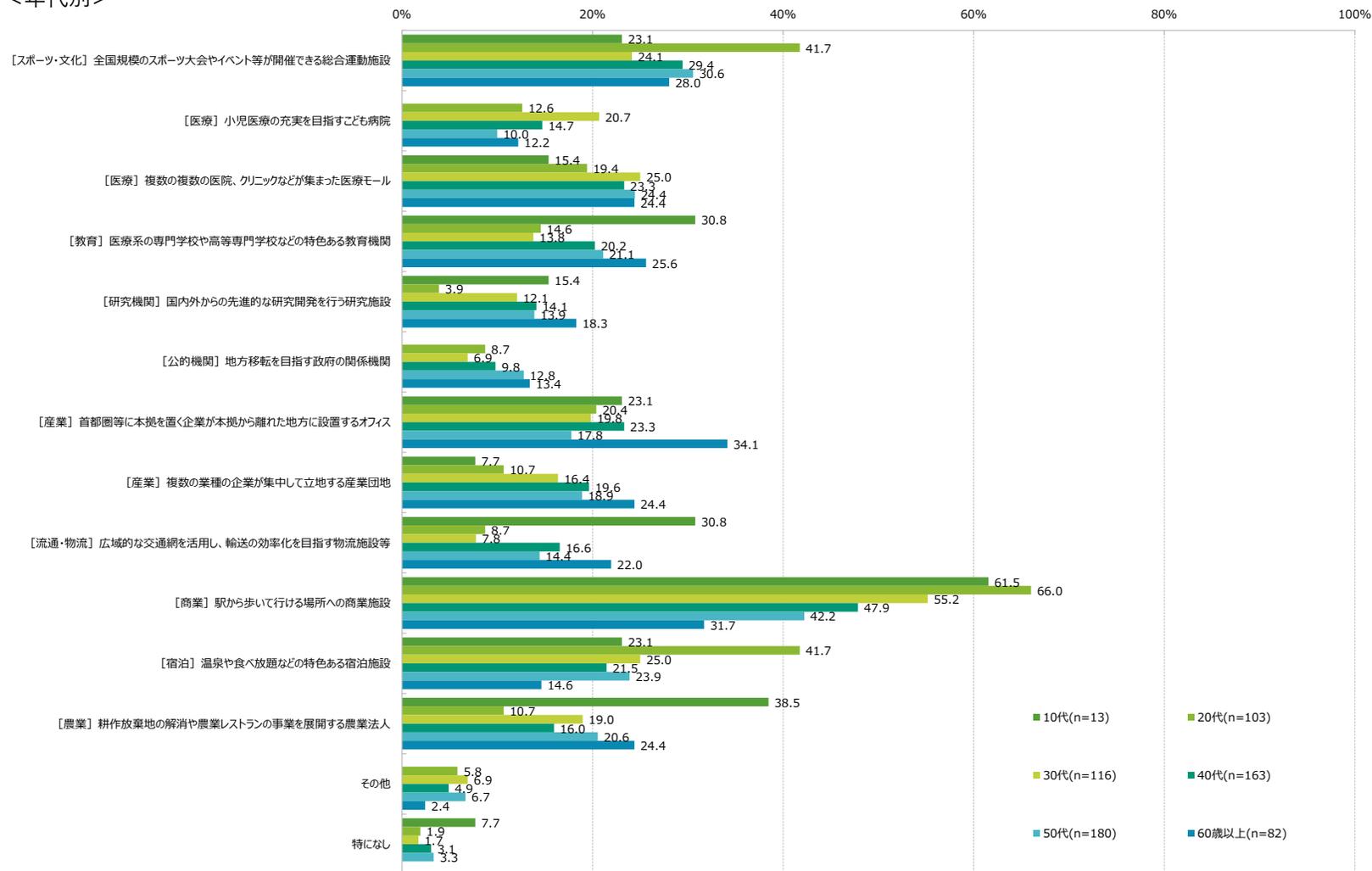


2 調査結果

リニア中央新幹線開業を見据えたまちづくりについて

Q10. 中央市リニア活用基本構想等において、次のように様々な施設の誘致などが考えられています。「検討ゾーン」への誘致について期待するものはありますか。該当するものを選んでください。（3つまで）

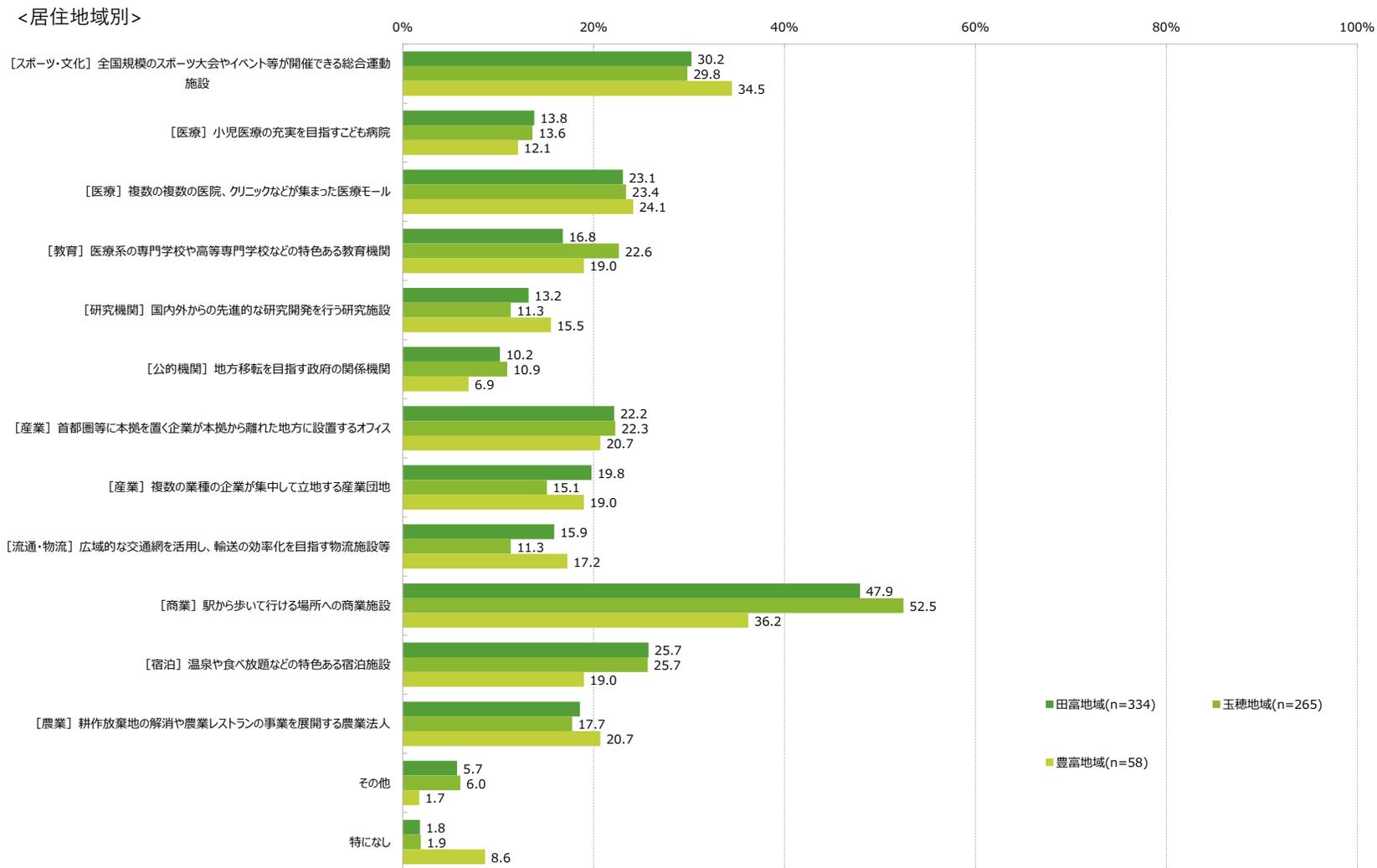
<年代別>



2 調査結果

リニア中央新幹線開業を見据えたまちづくりについて

Q10. 中央市リニア活用基本構想等において、次のように様々な施設の誘致などが考えられています。「検討ゾーン」への誘致について期待するものはありますか。該当するものを選んでください。（3つまで）



1 実施概要

検討ゾーンのまちづくりに関する意向などを確認するため「土地所有者意向調査」を実施

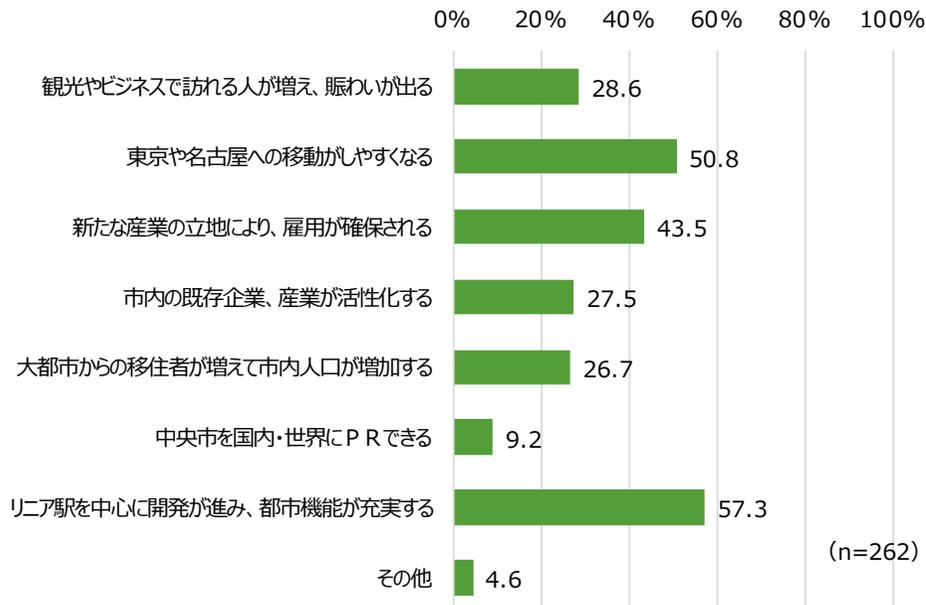
調査目的	<ul style="list-style-type: none"> ・土地所有者の意向を把握すること ・土地所有者の合意形成の取り掛かりとするとともに、まちづくりの範囲を検討するために必要な基礎データの収集を図ること 		
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ・検討ゾーンに土地を所有する納税筆頭者390人 (公共及び法人所有は除く) 	調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・郵送配布 ・郵送回収
実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年7月28日(金)～令和5年8月28日(月) 	回収数 回収率	<ul style="list-style-type: none"> ・262件 ・68.6% ※郵便不着分は対象外(母数381)
設問	<ul style="list-style-type: none"> ○リニア中央新幹線開業を見据えたまちづくりについて ○ご自身について 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果で示す割合は、小数点第二位の値を四捨五入して表記しているため、割合の合計が100%にならないことがあります。 		

2 調査結果

リニア山梨県駅の開業を見据えたまちづくりについて

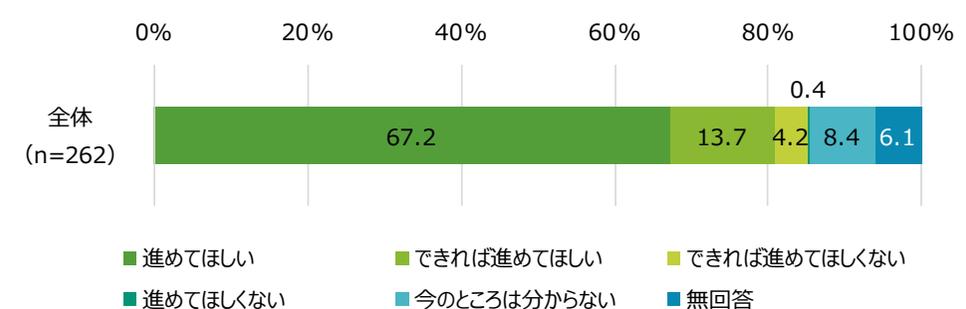
Q1-1. リニア山梨県駅の開業が本市に及ぼす効果について期待することは何ですか。（3つまで）

- 「リニア駅を中心に開発が進み、都市機能が充実する」が最も多く57.3%、次いで「東京や名古屋への移動がしやすくなる」が50.8%、「新たな産業の立地により、雇用が確保される」が43.5%となっている。
- 市民に比べて土地所有者の方が、「リニア駅を中心に開発が進み、都市機能が充実する」（市民調査結果：38.5%）や「新たな産業の立地により、雇用が確保される」（市民調査結果：32.4%）の期待度が高い傾向にある。



Q1-2. 今後、本アンケート等を踏まえ具体的な内容の検討を進めますが、現時点で市が進めるまちづくりについてどうお考えですか。（1つ選択）

- 「進めてほしい」が67.2%、次いで「できれば進めてほしい」が13.7%となっており、市が進めるまちづくりについて約8割の方が賛同している。
- 一方で、4.6%の方が「できれば進めてほしくない」もしくは「進めてほしくない」と考えている。
- 賛同できない方のご意見では、「具体的な案が提示されていないため賛同のしようがない」、「税金が上がる」、「農業従事者の減少が進んでいるが地産地消の観点からも農地の保全を慎重に検討してほしい」、「住環境への影響が不安」といった内容が見られた。

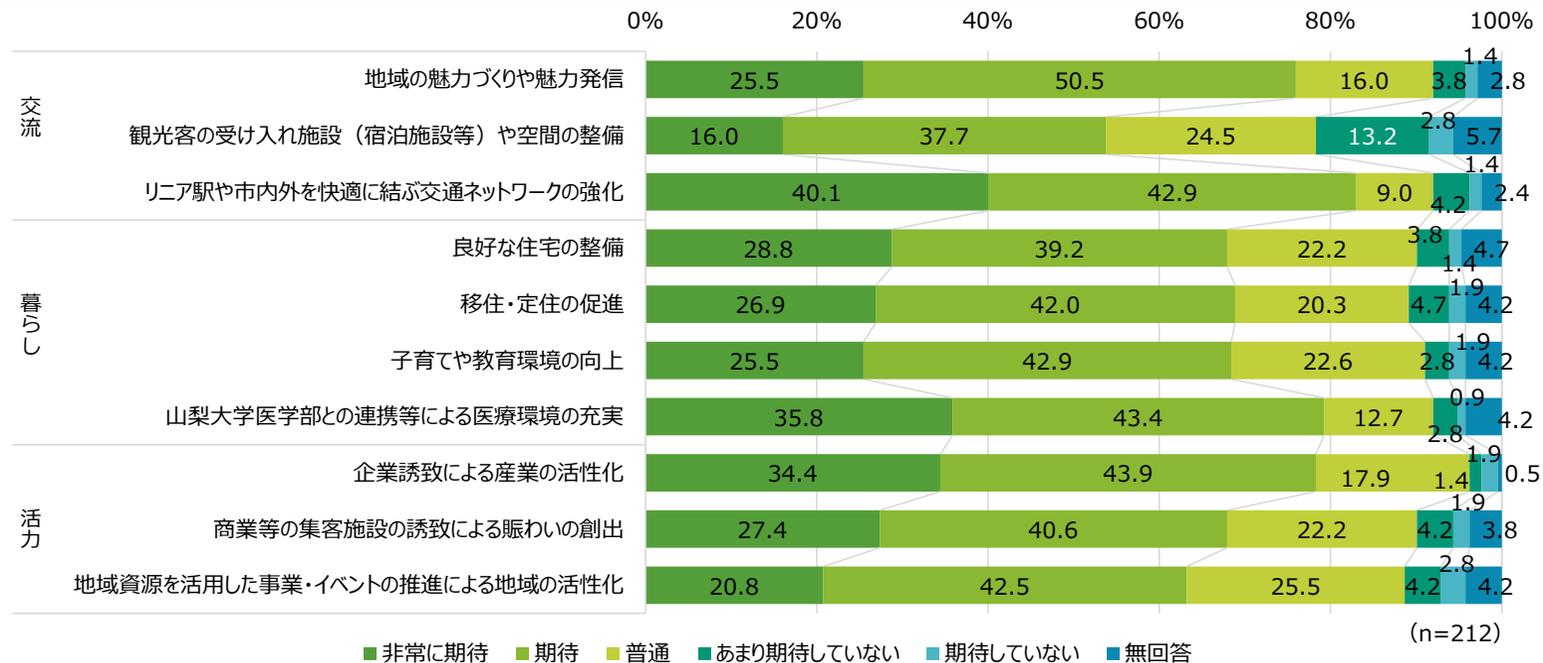


2 調査結果

リニア山梨県駅の開業を見据えたまちづくりについて

Q1-3. 「検討ゾーン」における取り組みの期待度について、それぞれ該当する番号を1つ選んでください。(1つ選択※Q1-2で1・2選択者のみ)

3 つの 柱	全体	<ul style="list-style-type: none"> 「リニア駅や市内外を快適に結ぶ交通ネットワークの強化」が非常に期待・期待をあわせ83.0%と期待度が最も高くなっている。次いで「山梨大学医学部を活かした医療・教育環境の充実」が79.2%、「企業誘致による産業の活性化」が78.3%となっている。 一方で、「観光客の受け入れ施設（宿泊施設等）や空間の整備」の期待度は比較的低くなっている。 多くの項目で期待度が60～80%となっており、市民調査結果と比較すると土地所有者の方が全体的に期待度が高い傾向にある。
	交流	<ul style="list-style-type: none"> 「リニア駅や市内外を快適に結ぶ交通ネットワークの強化」に対し、非常に期待度が高くなっている。
	暮らし 活力	<ul style="list-style-type: none"> 子育てや教育機会、医療・教育環境の充実等への期待度が高くなっている。 誘致による産業の活性化への期待度が高くなっている。

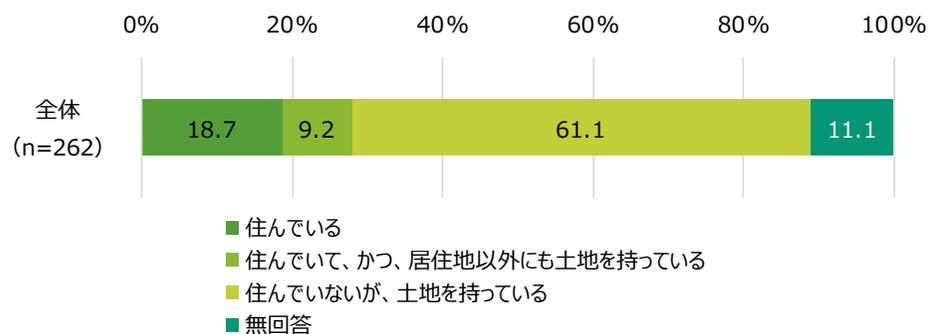


2 調査結果

ご自身について

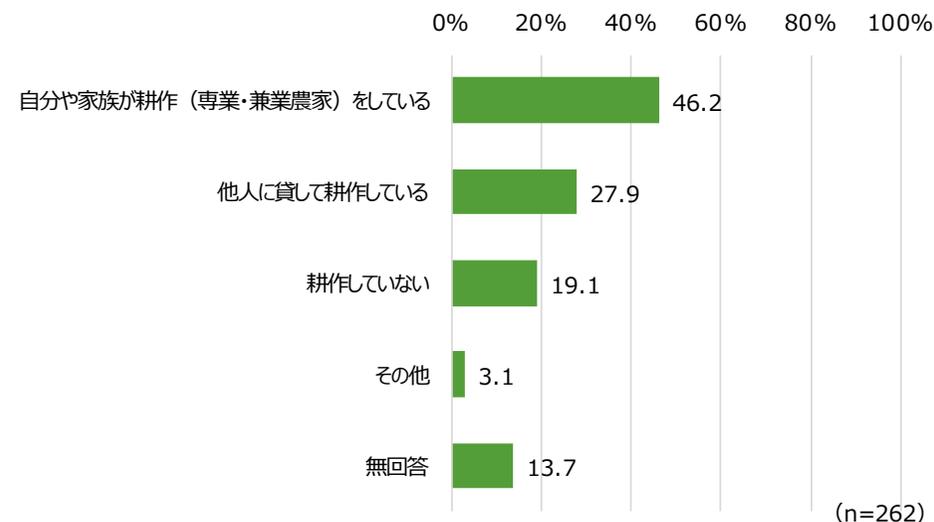
Q2-1. 現在、「検討ゾーン」内の土地に居住されていますか。(1つ選択)

- 「住んでいないが、土地を持っている」が最も多く61.1%となっている。
- 「住んでいる」「住んでいて、かつ居住地以外に土地を持つる」をあわせると27.9%となっており、おおむね3割の方が検討ゾーン内に居住している。



Q2-2. あなたが所有する「検討ゾーン」内の農地について、現在耕作されていますか。複数の土地を所有されている場合は、該当する全て選択。(※農地を所有しているかたのみ回答)

- 「自分や家族が耕作（専業・兼業農家）をしている」が最も多く46.2%、次いで「他人に貸して耕作している」27.9%となっている。
- 農地所有者の約2割が耕作していない状況となっている。

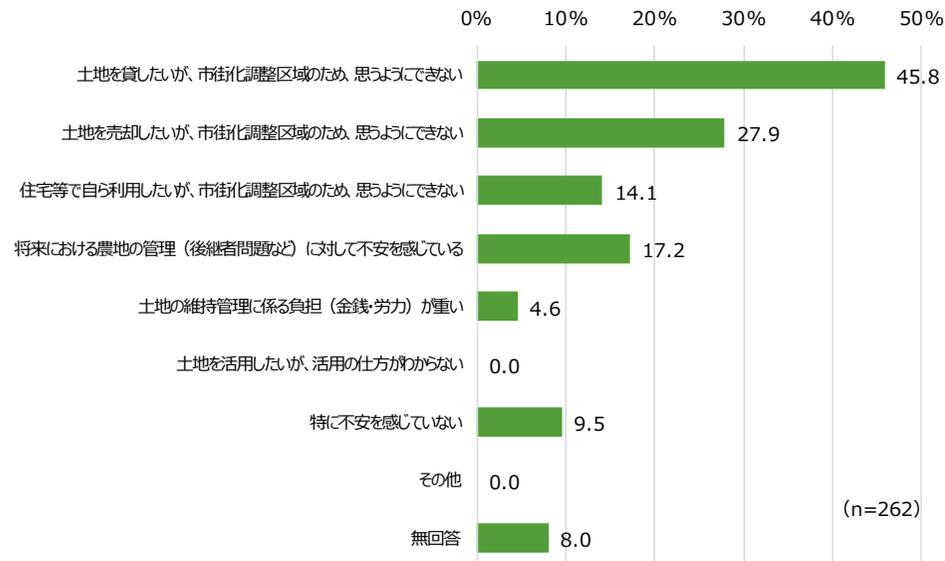


2 調査結果

ご自身について

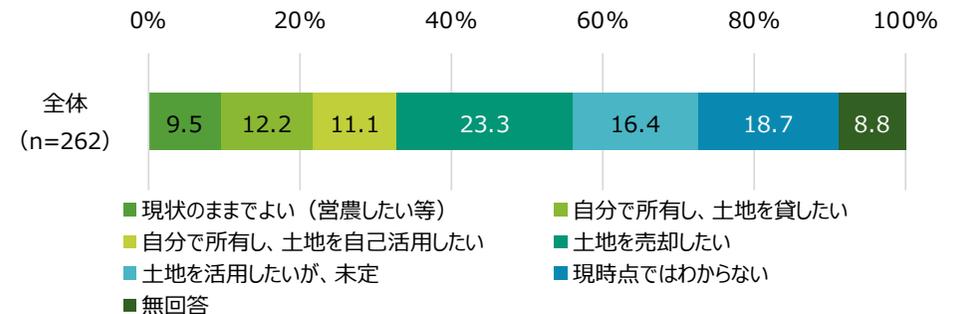
Q2-3. 「検討ゾーン」内の所有地について、土地の活用や維持等に関して不安を感じていることはありますか。（該当する全て選択）

- 「土地を貸したいが、市街化調整区域のため、思うようにできない」が最も多く45.8%、次いで「土地を売却したいが、市街化調整区域のため、思うようにできない」が27.9%となっている。
- のべ約9割の方が、市街化調整区域のため思うように土地活用が出来ないことに不満を抱えている。



Q2-4. ご所有されている土地について、将来の土地利用のご意向やご希望をどのようにお考えですか。（1つ選択）

- 「土地を売却したい」が23.3%で最も多く、約1/4の方が売却意向がある。次いで「現時点ではわからない」が18.7%、「土地を活用したいが未定」が16.4%となっている。
- 約6割の方に土地活用の意向（貸したい・活用したい・売却したい等）がある。
- 「現状のままでよい（営農したい等）」は9.5%となっている。



1 実施概要

企業立地施策を検討する際の基礎資料とするために「企業立地に関するニーズ調査」を実施

調査目的	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用転換検討ゾーンでの事業に関心を示している事業者の把握 ・市が想定するまちづくりの方向性と事業者が想定する土地活用の方向性の違い等の確認 ・事業者の要望の把握 		
調査方法	調査対象及び調査方法	実施時期	回収数
	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都、神奈川県、山梨県に本社がある総合工事業、医薬品や機械器具等の製造業、不動産業を対象にランダムで抽出（404社） ・調査票の郵送等配布、郵送等回収 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年9月15日（金）～令和5年10月13日（金） 	<ul style="list-style-type: none"> ・35件回収
設問	<ul style="list-style-type: none"> ○中央市での事業の有無について ○検討ゾーンの立地評価について ○検討ゾーンにおける事業展開の可能性について 		
	備考	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、上記A、Bの両方を含んでいます。 ・アンケートの結果で示す割合は、小数点第二位を四捨五入しているため、割合の合計が100%にならない場合があります。 	

2 調査結果

中央市での事業の有無について

Q1. 中央市をご存じですか。（1つ選択）

- 全体では「知っている」が75.9%、「知らない」が24.1%となっている。
- このうち、県内企業は中央市を知っているが、県外（東京都・神奈川県）の企業の認知度は半数程度となっている。



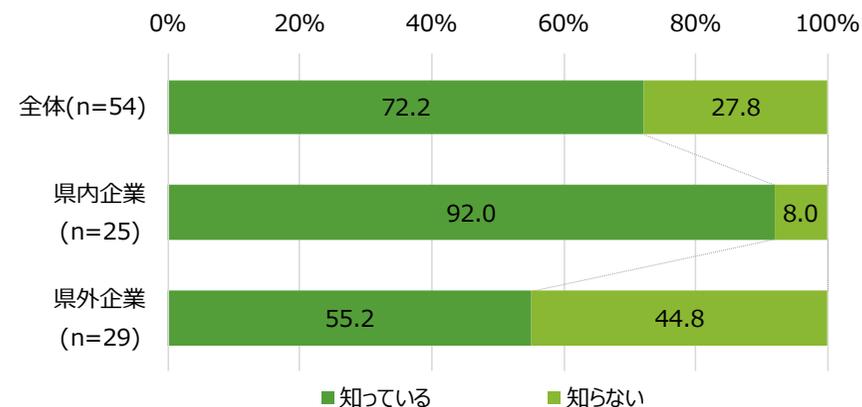
Q2. 中央市で事業やサービス等を展開していますか。（1つ選択）

- 全体では「行っている」が29.3%、「行っていない」が70.7%となっている。
- このうち、県内企業では約4割の企業が中央市で事業やサービスを展開しており、県外（東京都・神奈川県）企業は1割に達してない。



Q3. 中央市に隣接してリニア中央新幹線山梨県駅（甲府市大津町）が整備予定であることをご存知ですか。（1つ選択）

- 全体では「知っている」が72.2%、「知らない」が27.8%となっている。
- このうち、県内企業の約9割は中央市に隣接してリニア駅が整備予定であることを知っており、県外企業（東京都・神奈川県）認知度は半数程度となっている。

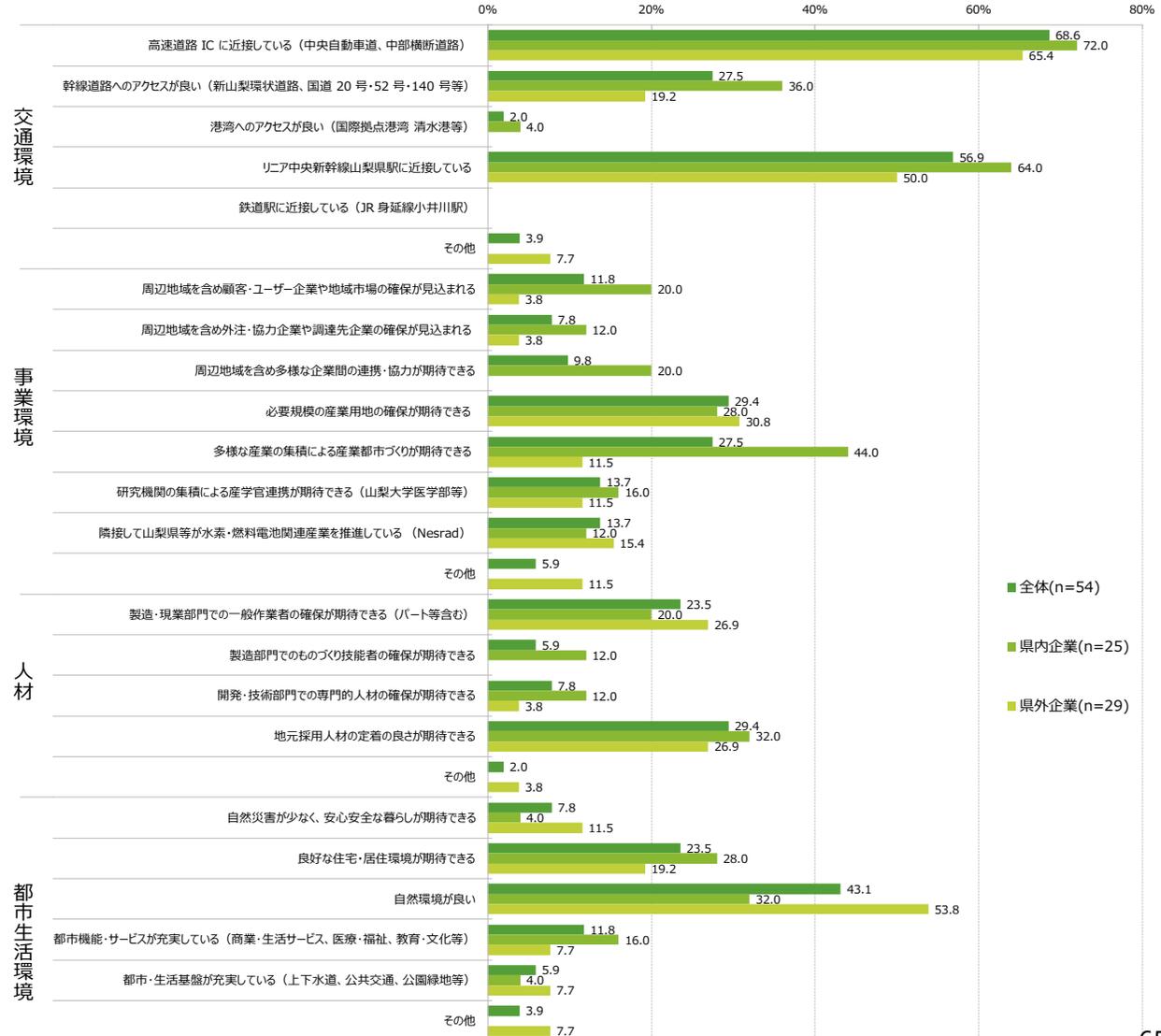


2 調査結果

検討ゾーンの立地評価について

Q4. 中央市が設定した土地利用転換検討ゾーンについて、企業の立地環境（工場・研究施設等の立地操業地）として見た場合、どのような印象をお持ちになりましたか。評価の高いものを選んでください（8つまで）

- 全体
 - ・ [交通環境] が最も高い評価を得ている分野となっている。
 - ・ 「高速道路 IC に近接している（中央自動車道、中部横断道路）」が68.6%と最も高く、次いで「リニア中央新幹線山梨県駅に近接している」が56.9%、「自然環境が良い」が43.1%となっている
- 交通
 - ・ 高速道路 IC やリニア中央新幹線山梨県駅への近接、幹線道路へのアクセス性の評価が高い。
 - ・ 交通環境については、県内企業の評価が高い。
- 事業
 - ・ 必要規模の産業用地の確保、多様な産業集積による都市づくりへの期待の評価が高い。
 - ・ 評価の高い「産業集積による都市づくり」については、県外企業に比べ、県内企業の方が着目している。
- 人材
 - ・ 地元採用人材の定着、製造・現業部門での一般作業者の確保の評価が高い。
- 都市生活
 - ・ 自然環境の良さ、良好な住宅・居住環境に関する評価が高い。
 - ・ 評価の高い「自然環境の良さ」については、県内企業に比べ、県外企業の方が着目している。

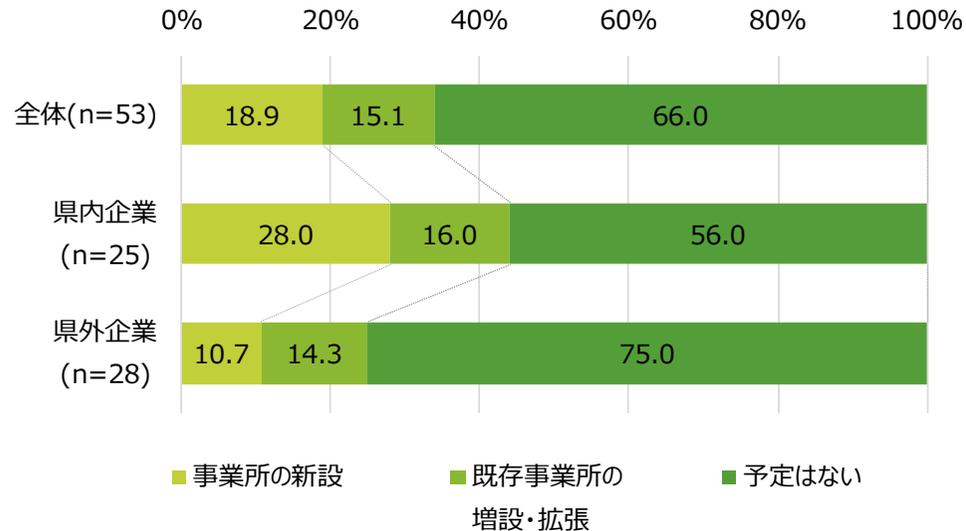


2 調査結果

検討ゾーンにおける事業展開の可能性について

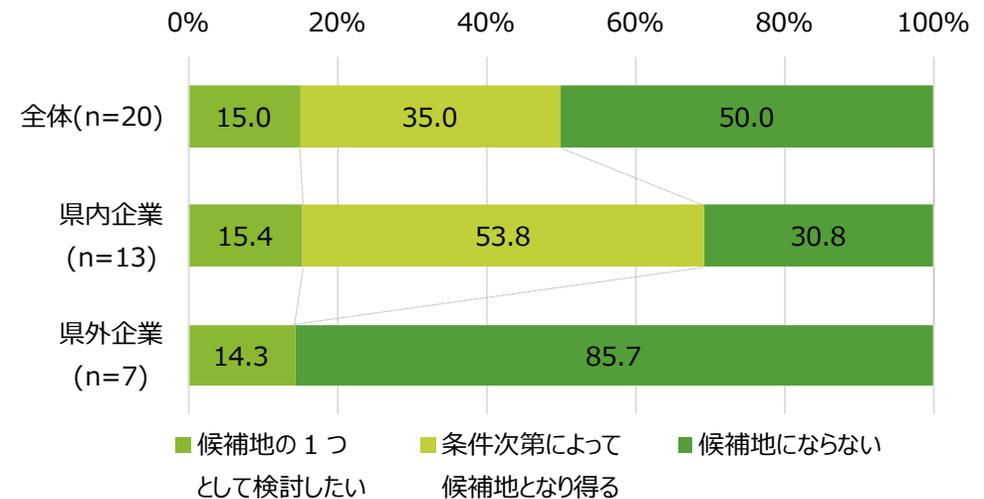
Q5. 国内の事業において、設備・施設面に関して今後どのような対応を想定されていますか。（1つ選択）

- 全体では「事業所の新設」が18.9%、「既存事業所の増設・拡張」が15.1%となっており、3割を超える企業が国内での設備投資等を想定している。
- 「事業所の新設」をみると、県内企業は28.0%、県外（東京都、神奈川県）企業は10.7%となっており、県内企業の方が高い傾向にある。



Q6. 中央市では、リニア中央新幹線山梨県駅や山梨大学医学部周辺の立地条件を活かし、戦略的・先導的な計画的なまちづくりをすすめるため、「土地利用転換検討ゾーン」を位置づけ土地利用の転換を検討しています。「土地利用転換検討ゾーン」がQ5の事業所立地の候補地となる可能性はございますか。（1つ選択）

- 全体では「候補地の1つとして検討したい」が15.0%、「条件次第によって候補地となり得る」が35.0%と、5割の企業が候補地の可能性があるとして回答している。
- このうち、県内企業は約7割、県外（東京都、神奈川県）企業は約1割となっており、県内企業の方が候補地として着目している。

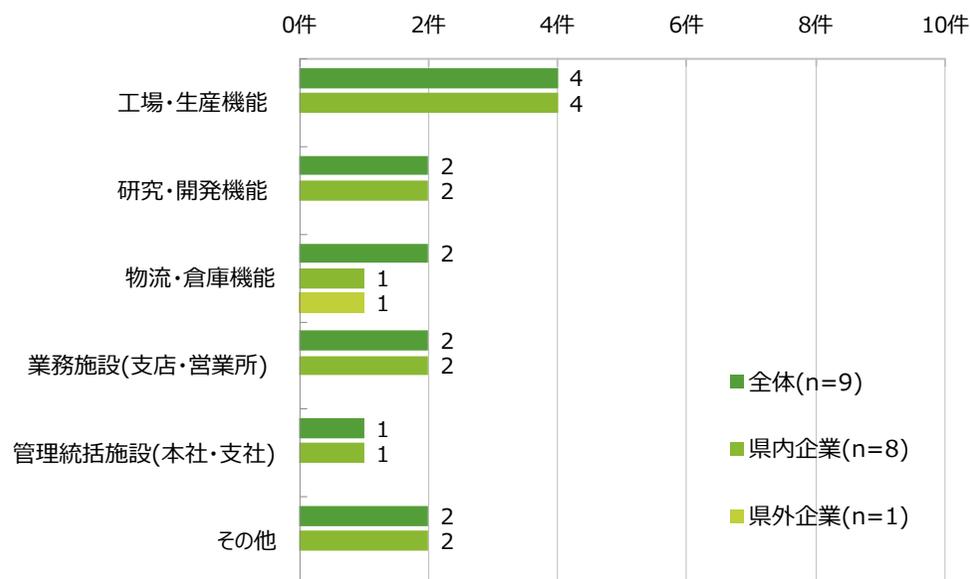


2 調査結果

検討ゾーンにおける事業展開の可能性について

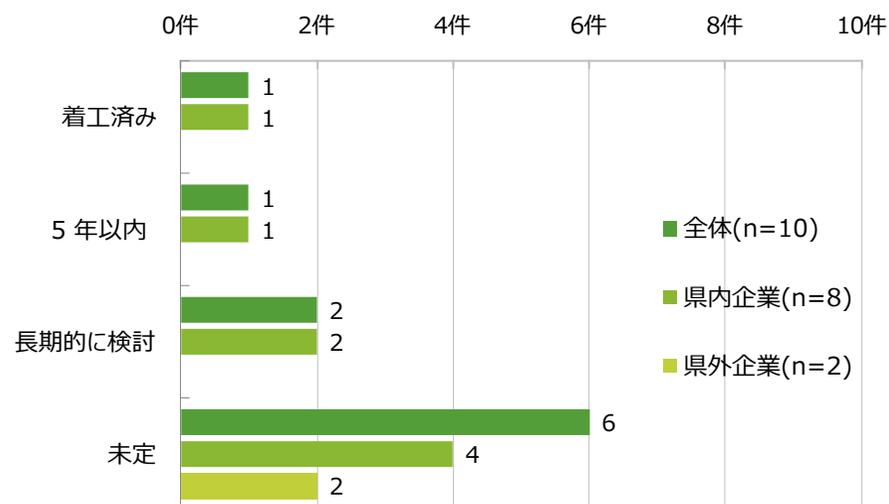
Q7-1. 事業所の新設等について立地施設は何を想定していますか。(複数選択)

- 「工場・生産機能」が4件で最も多く、次いで「研究・開発機能」、「物流・倉庫機能」、「業務施設(支店・営業所)」、「その他(診療所など)」がそれぞれ2件となっている。



Q7-2. 事業所の新設等の立地計画時期はいつ頃を想定していますか。(1つ選択)

- 「長期的に検討」、「未定」が合わせて8件となっており、本検討ゾーンの進捗状況等に応じて検討を進めるといった意向が伺える。
- 5年以内に計画している企業は1件となっている。

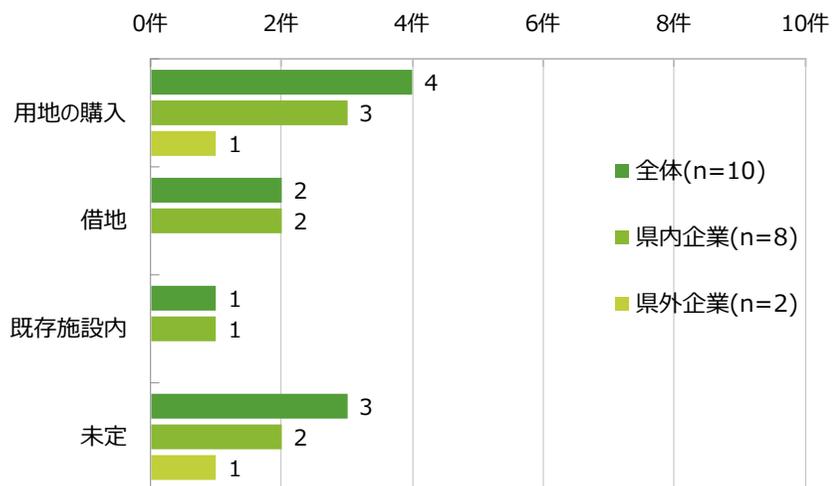


2 調査結果

検討ゾーンにおける事業展開の可能性について

Q7-3. 用地・施設等の取得・利用形態はどのようにお考えですか。（1つ選択）

- 「用地の購入」、「借地」と新たな用地・施設等を取得したいと考えている企業は6件、「既存施設内」は1件となっている。
- 取得・利用形態が「未定」の企業は3件となっている。



Q7-4. 新設等検討されている用地は、どの程度の面積を必要としますか。（1つ選択）

- 必要な用地面積に関して、「1ha以上」が3件と最も多く、次いで「1,000～3,000m²未満」が2件、「3,000～5,000m²未満」が1件となっている。
- 用地面積が「未定」の企業は5件となっている。



2 調査結果

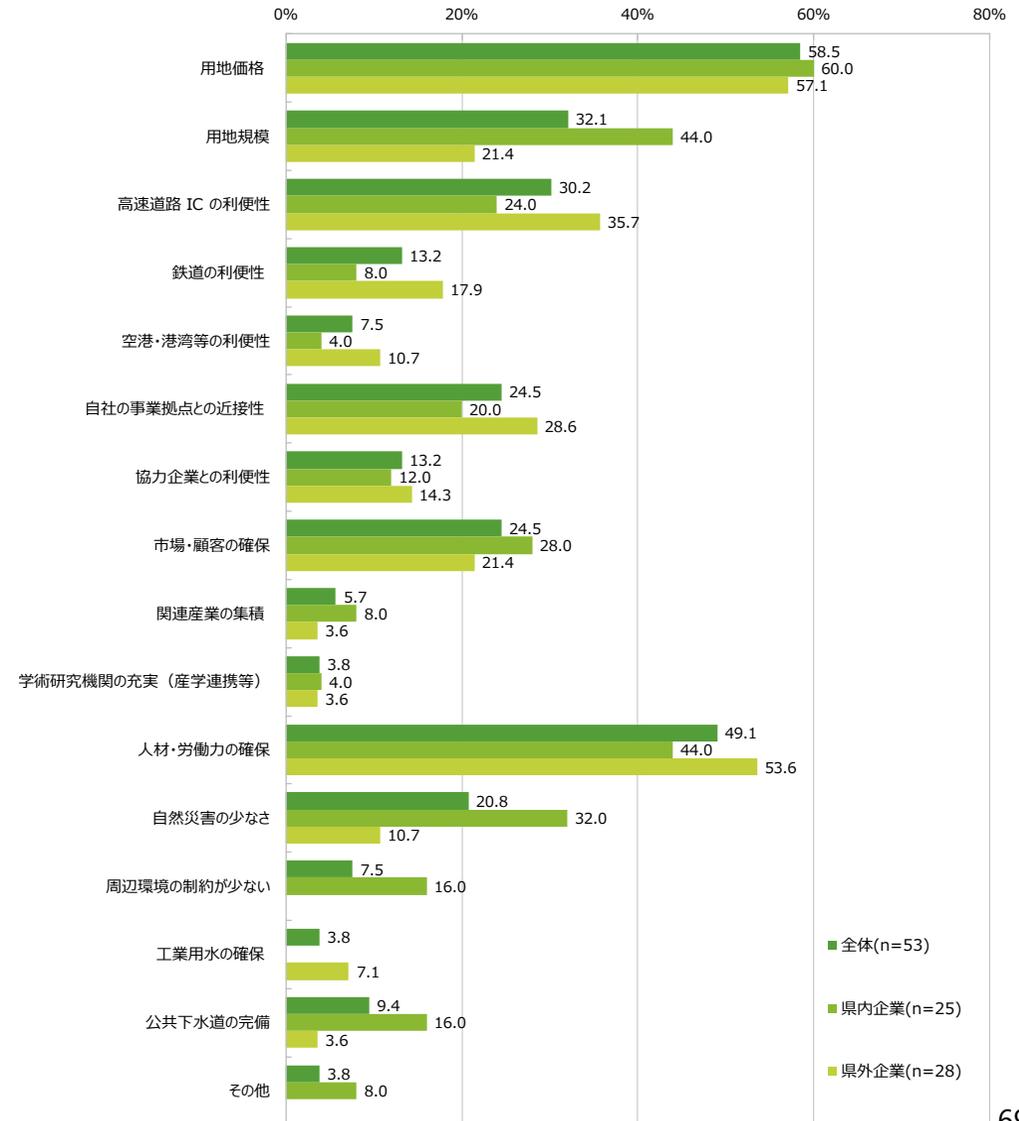
検討ゾーンにおける事業展開の可能性について

Q8. 新たな立地先を選定する場合、どのような要素を重視されますか。
(4 つまで)

- 全体では「用地価格」が58.5%と最も高く、次いで「人材・労働力の確保」が49.1%、「用地規模」が32.1%となっている。

<所在地別>

- 県内企業の評価をみると、「用地価格」（60.0%）に次いで、「用地規模」と「人材・労働力の確保」（44.0%）を重視している。
- 県外企業（東京都・神奈川県）の評価をみると、「用地価格」（57.1%）に次いで、「人材・労働力の確保」（53.6%）、「高速道路ICの利便性」（35.7%）を重視している。
- 県内の企業は県外の企業に比べて、「用地規模」や「自然災害の少なさ」、「周辺環境の制約が少ない」を重視しており、外的リスク（災害等）を見据えた立地選定を行う傾向がある。
- 一方で、県外の企業は「高速道路ICの利便性」、「鉄道の利便性」「自社の事業拠点との近接性」を重視する傾向があり、広域的ネットワークの形成という視点で立地選定を行う傾向がある。



2 調査結果

検討ゾーンにおける事業展開の可能性について

Q9. 仮に土地利用転換検討ゾーンでの立地をご検討される場合、どのような支援制度・サポートの整備・充実を希望されますか。(4 つまで)

- 全体では「優遇措置の充実（税制・補助金等）」が62.7%と最も高く、次いで「市による産業用地の整備・提供」が49.0%、「人材確保・採用への支援」が45.1%となっている。

<所在地別>

- 県内企業の評価をみると、「優遇措置の充実（税制・補助金等）」（56.0%）に次いで、「市による産業用地の整備・提供」「人材確保・採用への支援」（48.0%）を重視している。
- 県外企業（東京都・神奈川県）の評価をみると、全体と同様に「優遇措置の充実（税制・補助金等）」（69.2%）、次いで「市による産業用地の整備・提供」（50.0%）、「人材確保・採用への支援」（42.3%）を重視している。
- 県内の企業は県外の企業に比べて、「土地利用転換の可能性に関する情報」、「国や県の優遇措置に関する情報提供」、「域内外の交通アクセスの向上」、「浸水に配慮した造成」を重視しており、情報提供や災害リスクの軽減を希望する傾向がある。
- 県外の企業は県内の企業に比べ、「開発や操業等の規制緩和」、「優遇措置の充実（税制・補助金等）」、「新規市場・販路開拓への支援」を重視しており、規制緩和や優遇等による事業展開の促進を希望する傾向がある。

